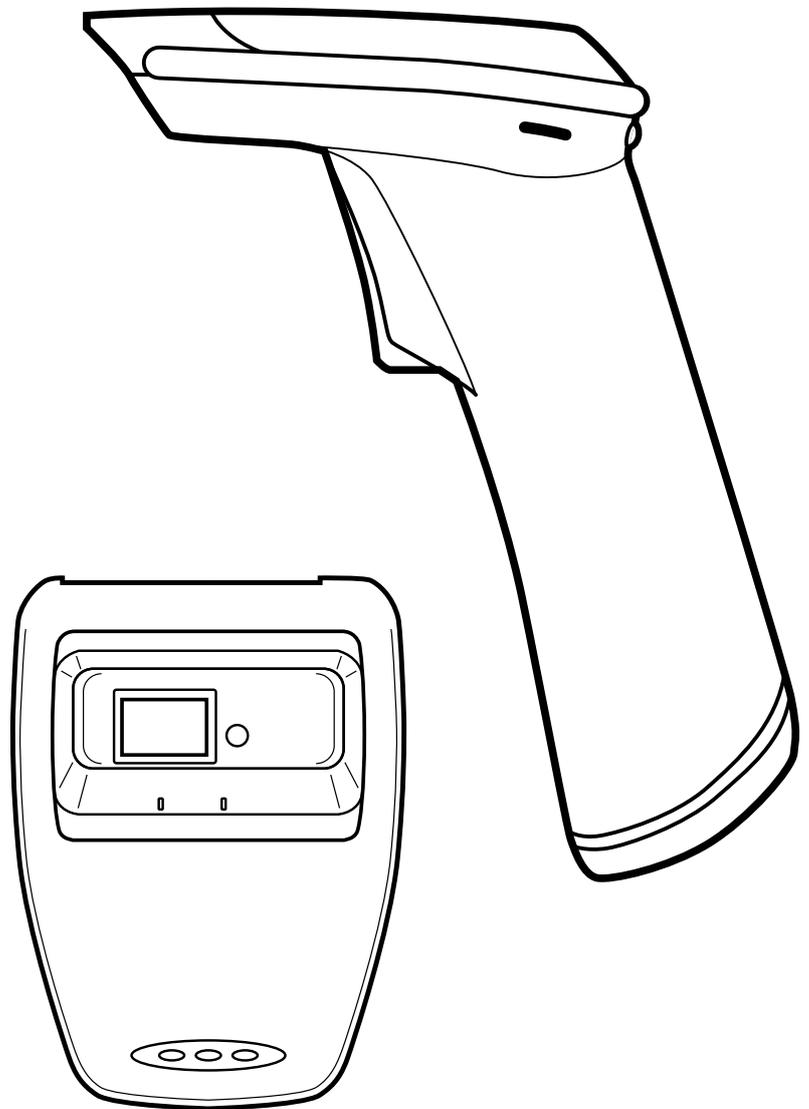


コードレススキャナ
WL7-USB
ユーザーズマニュアル



WL7-USB

ユーザーズマニュアル

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

IEEE802.15.4 は米国電気電子技術者協会が発行した無線規格です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

正しく安全に お使いいただくために

弊社製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

ご使用前にこのユーザーズマニュアルをよくお読みになり、内容を理解してからお使いください。
表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明します。



危険

この表示の欄は「死亡または重傷等を負う可能性が想定され、かつ危険発生時の警告の緊急性が高い」内容です。



警告

この表示の欄は「死亡または重傷等を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

以下の絵表示は、お守りいただく内容区分を説明しています。



このような絵表示はしてはいけない「禁止」であることを示します。
図の中に具体的な禁止の内容が示されています。



このような絵表示は必ずしていただく「強制」であることを示します。
図の中に具体的な指示の内容が示されています。



このような絵表示は注意を促す内容であることを示します。図の中に具体的な注意の内容が示されています。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するためにも、次の事柄は必ずお守りください。

必ずお守りください



製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している危険、警告、注意の表示を厳守してください。

WL7、IU-001 共通



危険



高温になる場所（火やストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生する場所での使用、放置、充電はしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



レーザを人に向けないでください。

レーザ光が目に入ると視力に障害をきたす恐れがあります（『レーザ安全基準について』（P.vi）参照）。



電子レンジや高圧容器などの中に入れてしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



火の中に投入したり、加熱しないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



スキャナ充電端子（WL7）、スキャナ給電端子（IU-001）をショートさせたり、ハンダ付けしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

警告



所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



落下させる、投げつけるなど強い衝撃を与えないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



分解、改造をしないでください。

けがや感電、火災などの事故または故障の原因となります。内部の点検、調整はお買い上げの販売店にお任せください。

万一、改造などにより生じた問題については、一切の責任を負いかねます。



スキャナ充電端子 (WL7)、スキャナ給電端子 (IU-001) に手や指など身体の一部が触れないようにしてください。

感電、傷害、故障の原因となる場合があります。



薬品に近づけないでください

薬品が触れる場所や薬品のそばで使用、保管しないでください。感電、火災などの事故または故障の原因となります。

注意



高温となる場所、湿気・ほこりの多い場所で使用・保管しないでください。

火のそば、直射日光が当たるところなど高温になる場所での使用や保管は避けてください。火災などの事故またはケースの変形や故障の原因となります。また湿気、ほこりの多いところでの使用や保管は避けてください。感電、火災などの事故または故障の原因となります。



不安定なところに置かないでください。

機器が落ちたり倒れたりして、けがや機器の故障の原因となります。



乳幼児の手の届くところに置かないでください。

けがなどの原因となります。



本製品は、その故障が直接生命を脅かしたり人体に影響のある装置（原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器制御など。以下『ハイセイフティ用途』）に使用するために開発、意図、許可されているものではありません。

弊社は、本製品を当該ハイセイフティ用途に使用したことにより発生したいかなる損害に対しても、一切の責任を負いかねます。

WL7 について

警告

持ち運びのときには、ストラップが引っかからないようにしてください。



ストラップの取扱いには充分注意してください。ストラップが他の物に引っかかると、けがや事故の原因となります。

高精度な制御や微弱な信号を扱う電子機器の近くでは使用しないでください。



電子機器（医療用電子機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など）が誤動作するなどの影響を与えることがあります。（『電波に関する注意』（P.vii）参照）

異物を本体の内部に入れないでください。



もし本体の内部に異物や液体が入った場合は使用を中止し、お買い上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると感電、火災などの事故または故障の原因となります。

注意

コンピュータや蛍光灯、電子レンジなどのノイズを発する機器からはなるべく離して使用してください。



ノイズの影響により正常に通信できなくなる場合があります。

必ず手に取って操作してください。



床や机に置いたまま、あるいはチャージャに置いたままの状態で作ると機器の故障や誤作動の原因となります。

強い衝撃を与えないでください。



本体を落とす、投げる、叩くなどしないでください。故障の原因となります。

水のかかる場所では、使用しないでください。



本体は水に対し保護されません。内部に水が入り感電、火災などの事故または故障の原因となります。

RFID のアンテナ等の近くでは使用を避けてください。



本体の誤動作の原因となります。

レーザー安全基準について

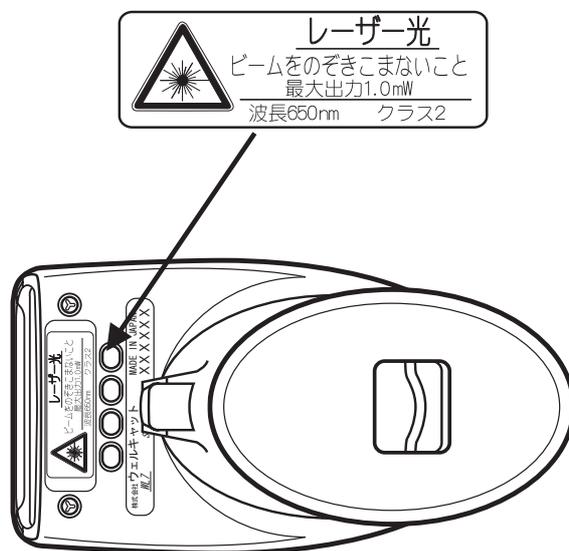
本製品はレーザー製品の安全基準 (JIS C 6802) クラス 2 に準拠しています。

最大出力: 1.0mW

波長: 650±10nm

クラス 2 ではまばたき等の嫌悪反応で目が保護されますが、レーザー光をのぞき込んだり直接目に入れることはしないでください。

レーザーに関する警告ラベル



注意

ユーザーズマニュアルに反した使用や、製品の分解はしないでください。危険なレーザー放射の被ばくを招くことがあります。

電波に関する注意

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。また、ご使用前に「正しく安全にお使い頂くために」(P.ii)を必ずお読みください。

- ・ 心臓ペースメーカ等装着者や医療機器をご使用の近くで、本製品をご使用にならないでください。
医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- ・ 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。
電子レンジからもれる電波によって本製品の無線通信に妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

注意

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止した上、弊社営業にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社営業へお問い合わせください。

IU-001 の製品銘板に記載されている **2.4DS1** は次の内容を表わしています。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	40m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能。

※WL7 は、本体グリップ内の基板に認証証明ラベルを貼り付けています。

注意

1. 本機 (WL7 および IU-001) は電波法で定められた 2.4GHz 帯高度化小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、特定無線設備の工事設計の認証を取得済みの製品です。その為、日本国内においては無線局の免許は必要ありません。
2. 本機 (WL7 および IU-001) を分解したり、本機の内部に触れることは電波法で禁止されており、法律で罰せられることがあります。故障の際の内部点検、調整はお買い上げの販売店にお任せください。
3. 本機 (WL7 および IU-001) は日本国内でのみ使用可能です。海外では電波規格が異なるため、使用できません。

製品保証について

1. 製品の無償保証期間は弊社出荷日より 1 年となります。ただし、無償保証期間内でも、次のような場合は有償となることがありますのでご了承ください。なお、本製品に保証書の添付はございません。
 - ・ シリアル番号の無いものおよび確認できないもの(出荷日の管理が不可能なため)
 - ・ マニュアル等に記載された使用方法および注意事項に反する取り扱いによる障害
 - ・ 故意または重大な過失による障害
 - ・ 使用環境が所定条件から逸脱したことによる障害
 - ・ 許可無く、改造または他機器の接続、取付けを行なったことによる障害
 - ・ 災害、地震、水害等の天災地変による障害
 - ・ お客様の作成されたソフトウェアおよびシステムによる障害
 - ・ 使用上避けられない消耗による障害・部品交換(消耗品交換)
2. 製品の内容は、改良やバージョンアップなどにより、予告なく変更することがあります。
3. 本製品の運用の結果生じた損失については、全てにわたる責任を負いかねますので、ご了承ください。
4. お買上げ頂きました製品をご利用頂くにあたり、下記の登録ページへのリンクよりユーザ登録をして頂くことをお奨めします。ユーザ登録は、弊社が製品の保証をするために必要なものですので、ぜひ登録をお願い致します。またご登録頂くことで、商品・サービスに関連した情報等をご提供させていただきます。

<http://www.welcat.co.jp/support/regist/index.htm>

登録には製品のシリアル番号が必要になりますので、予めご確認ください。

消耗品について

消耗品(消耗部品)は、製品を使用し続けることで性能が低下してきます。製品の使用環境や使用頻度により性能低下までの期間は異なり、使用状況によっては弊社の保証期間より短い期間での交換(有償)が必要になることがあります。

消耗品には、次のものがあります。

- WL7
 - ・ レーザスキャナー(バーコード読取り装置)
 - ・ 電極板(充電端子)
 - ・ 充電池
- IU-001
 - ・ 電極板(給電端子)

目次

レーザ安全基準について	vi
レーザに関する警告ラベル	vi
電波に関する注意	vii
製品保証について	viii
消耗品について	viii
目次	ix
はじめに	xi
同梱品	xi
別売り	xi
表記上の注意	xii

第 1 章 お使いになる前に 1-1

1-1 WL7 のハードウェア仕様	1-2
1-1-1 各部の名称と役割	1-2
1-1-2 外形寸法図	1-3
1-1-3 読取り性能	1-4
1-1-4 仕様	1-6
1-1-5 初期設定	1-7
1-1-6 充電方法	1-8
1-2 IU-001 のハードウェア仕様	1-9
1-2-1 各部の名称と役割	1-9
1-2-2 外形寸法図	1-10
1-2-3 仕様	1-10
1-2-4 通信設定	1-11
1-3 その他、付属品について	1-12
1-3-1 充電池について	1-12
1-3-2 通信ユニットについて	1-12
1-3-3 ハンドストラップについて	1-12

第 2 章 動かしましょう 2-1

2-1 基本動作	2-2
2-1-1 USB インターフェース時の接続確認	2-2
2-1-2 RS-232C インターフェース時の接続確認	2-3
2-2 有線通信の設定 (IU-001⇔ホスト PC)	2-4
2-2-1 IU-001 の DIPSW 設定	2-4
2-2-2 USB ドライバの使用方法	2-5
2-3 無線通信の設定 (WL7⇔IU-001)	2-19
2-3-1 無線仕様	2-19
2-3-2 無線通信の設定	2-19

第 3 章 各種条件の設定	3-1
3-1 設定の詳細	3-2
3-2 設定の初期化	3-3
3-3 読取りコード	3-4
3-3-1 読取りコードの設定	3-4
3-3-2 桁数転送の設定	3-6
3-3-3 C/D (チェックデジット) 計算の設定	3-8
3-3-4 C/D (チェックデジット) 転送の設定	3-9
3-3-5 スタート/ストップキャラクタ転送の設定	3-11
3-4 読取り設定	3-12
3-4-1 読取り桁数の設定	3-12
3-4-2 読取り方式の設定	3-13
3-4-3 トリガキーの設定	3-14
3-4-4 トリガキー機能の設定	3-15
3-4-5 読取り時間の設定	3-16
3-4-6 2 度読み防止タイマー時間の設定	3-17
3-4-7 多段読みの設定	3-18
3-4-8 ブザー音量の設定	3-19
3-4-9 ブザー音の設定	3-20
3-5 データ出力設定	3-21
3-5-1 終端コード付加の設定	3-21
第 4 章 EAN-128 読取り設定	4-1
4-1 EAN-128 読取り設定	4-2
4-2 区切り文字の設定	4-4
4-3 出力形式 1 の設定方法	4-6
4-4 その他の設定	4-8
4-5 直接入力コード表	4-9
4-6 出力形式 1 設定用コード	4-23
第 5 章 定期刊行物コード (雑誌) の読取り	5-1
5-1 定期刊行物コード (雑誌) の読取り設定	5-2
5-1-1 定期刊行物コードの読取り設定	5-2
5-1-2 定期刊行物コードの C/D (チェックデジット) 転送設定	5-2
付録 サンプルバーコード	付録-1
付録-1 サンプルバーコード	付録-2

はじめに

この度はWL7-USB(コードレススキャナセット:WL7およびIU-001)をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。

このユーザーズマニュアルは、WL7(コードレススキャナ)およびIU-001(通信ユニット)のハードウェア仕様と必要な接続、設定、また基本的な使用方法について説明するものです。

お客様の業務の効率化にWL7-USBがお役に立てば幸いです

同梱品

●WL7

- WL7 本体(コードレススキャナ:充電電池内蔵)..... 1
- ストラップ..... 1

●IU-001

- IU-001 本体(通信ユニット)..... 1
- ACアダプタ..... 1
- USBケーブル..... 1
- RS-232Cケーブル..... 1

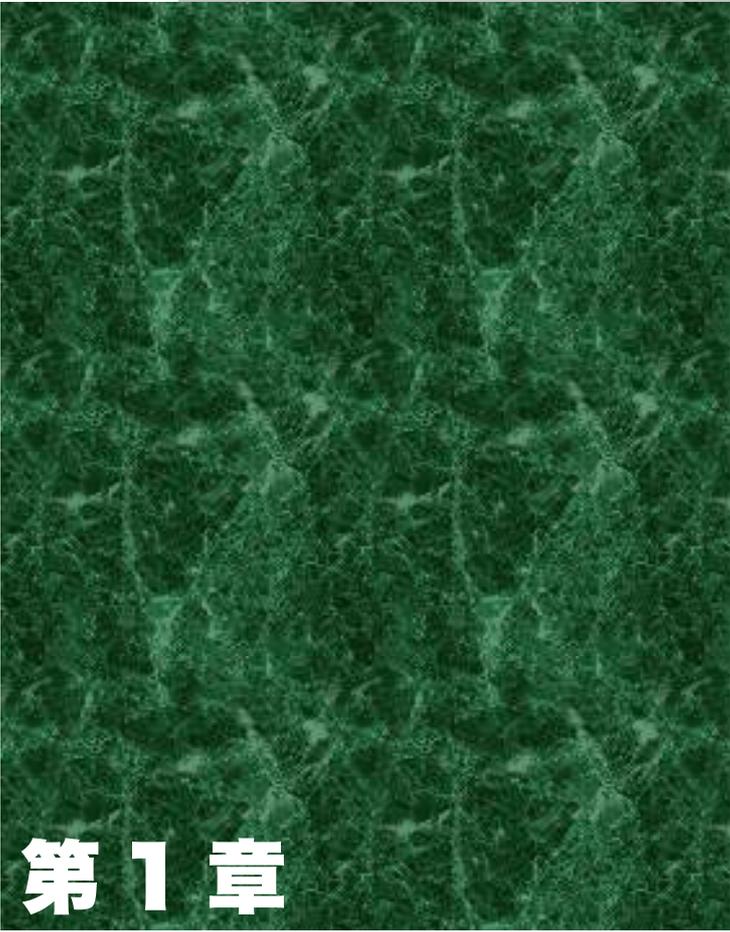
- マニュアル CD-ROM..... ※
※別梱包にて添付

別売り

- QC-004(チャージャ)

表記上の注意

 参照	参照事項を表わします。
 注意	注意事項を表わします。
WL7-USB	コードレススキャナ (WL7) と IU-001 (通信ユニット) のセットを指します。
WL7、スキャナ	コードレススキャナ WL7 を指します。
IU-001、通信ユニット	通信ユニット IU-001 を指します。
QC-004、チャージャ	チャージャ QC-004 を指します。



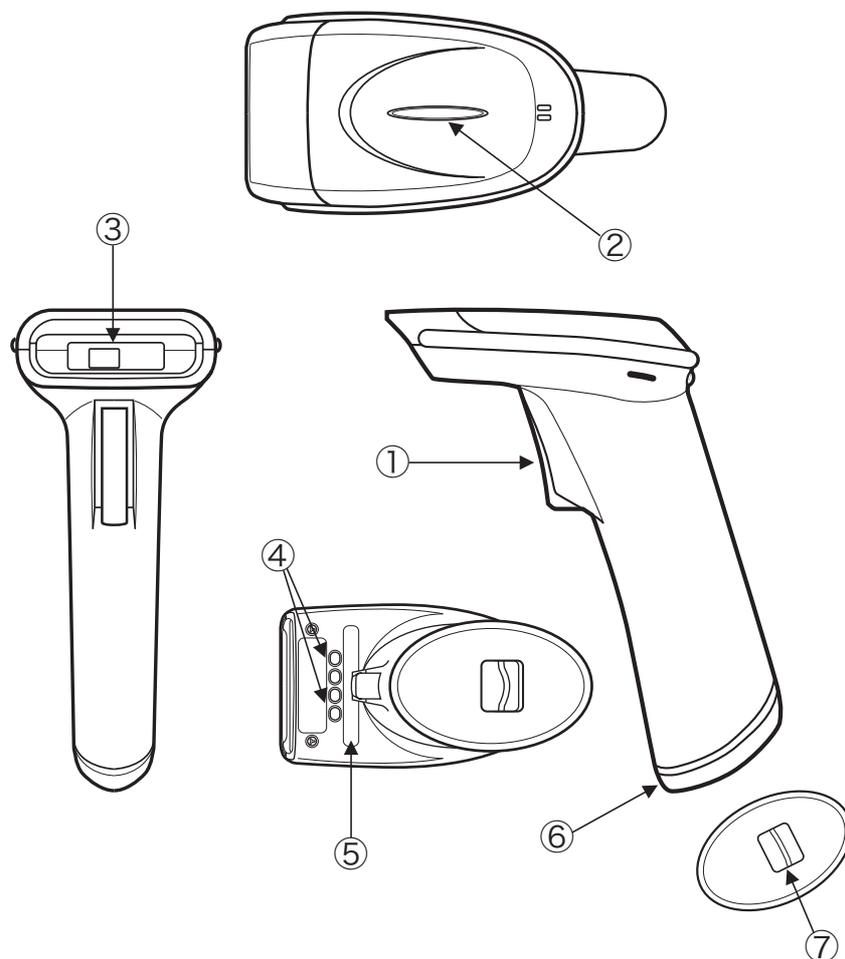
第1章

お使いになる前に



1-1 WL7 のハードウェア仕様

1-1-1 各部の名称と役割



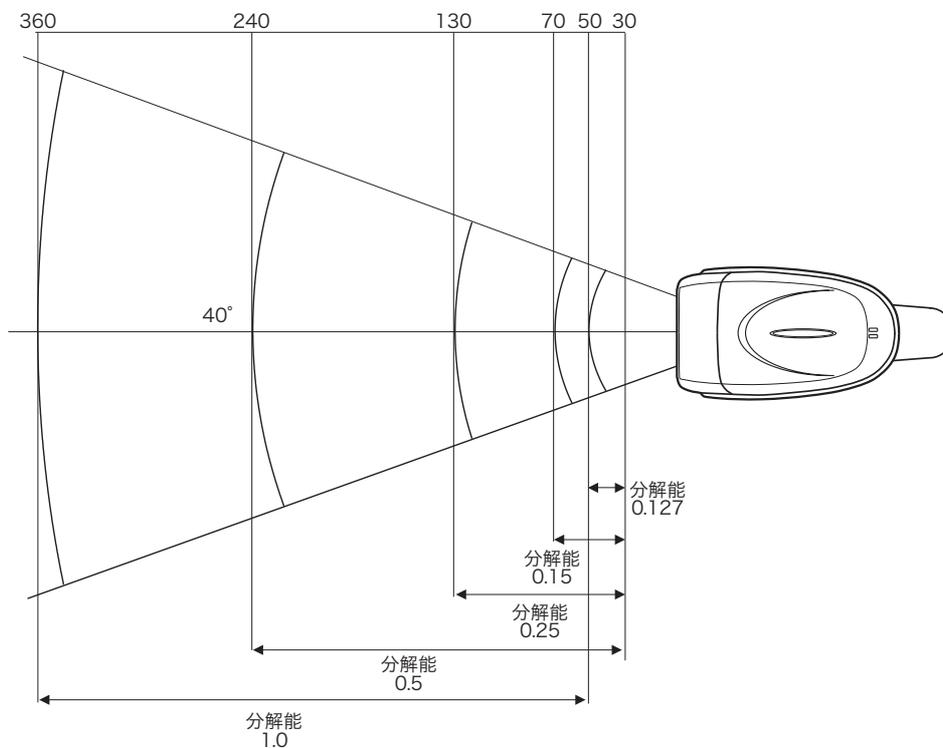
- ①トリガキー
バーコード読み取り、通信ユニットへの登録を行います。
- ②2色LED
バーコード読み取り、無線通信、充電などの動作状態を表示します。
- ③読み取り口
バーコードを読み取るための読み取り口です。
- ④充電端子
スキャナの充電用端子です。
- ⑤シリアル番号
シリアル番号付シールです。
- ⑥グリップエンド
保護用キャップです。
- ⑦ストラップ取付け用シャフト
ストラップを取付けるためのシャフトです。

1-1-2 外形寸法図



1-1-3 読取り性能

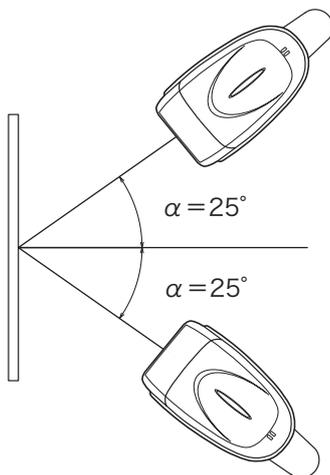
■読取り深度と分解能



PCS	分解能 (mm)	読取り深度 (mm)
0.9	1.0	50~360
	0.5	30~240
	0.25	30~130
	0.15	30~70
	0.127	30~50

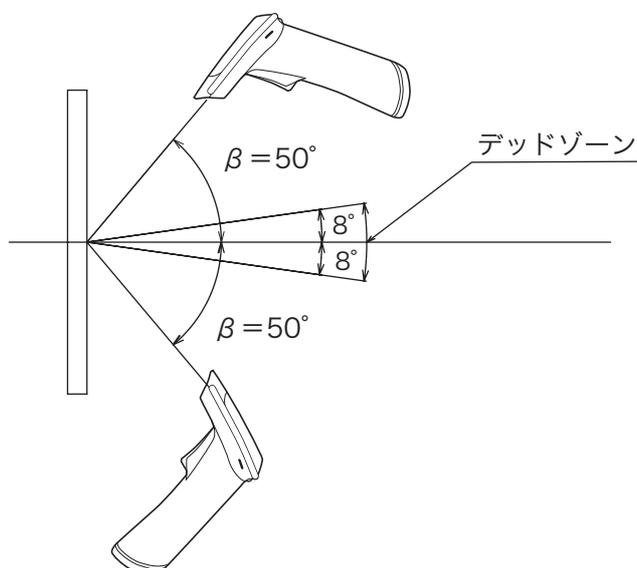
■ピッチ角度

$\alpha \pm 25^\circ$ まで読取り可能です。



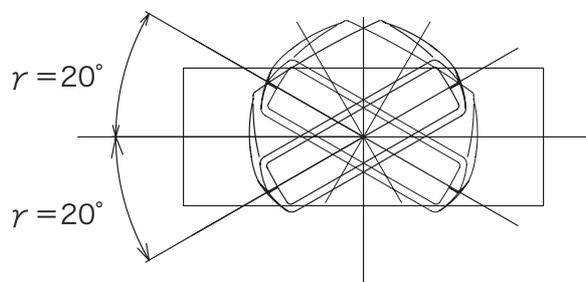
■スキュー角度、デッドゾーン

- スキュー角度
デッドゾーンを除き、 β =上下 50°まで読取り可能です。
- デッドゾーン
 β =上下 8°で正反射による読取り困難な領域があります。



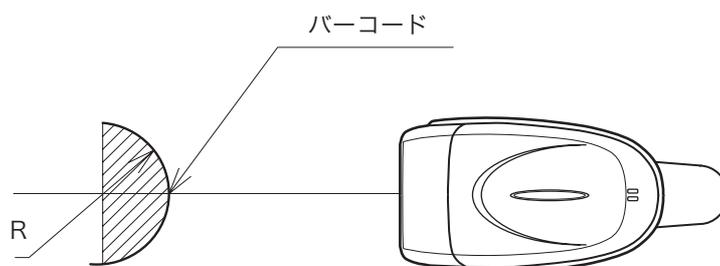
■チルト角度

γ =時計回り、反時計回り 20°まで読取り可能です。



■湾曲

JAN8 桁の場合、 $R \geq 15$ の範囲で読取り可能です。
JAN13 桁の場合、 $R \geq 20$ の範囲で読取り可能です。



1-1-4 仕様

■WL7 の仕様

項目	仕様		備考
スキャナ部	読取コード	JAN/EAN、UPC-A/E、NW-7、CODE-39、CODE-93、CODE-128、インダストリアル 2of5、インターリブド 2of5、EAN-128、定期刊行物コード(雑誌)	
	レーザー波長/出力	650±10nm/1mW 未満	クラス 2(JIS C 6802)
	スキャン速度	100scan/sec	
	分解能	0.127mm 以上	
	PCS	0.45 以上	
表示部	LED:2 色発光素子(赤/緑)		
ブザー部	バーコード読取り時、各種設定やエラー時に鳴動		
操作部	1 キー(トリガ)		
寸法	55(W)×115(D)×150(H)mm		
重量	130g		充電池含む
電源部	充電池	リチウムイオン二次電池	600mAh
	消費電流	1mA 以下	待機時
		35mA 以下	無線通信時
		125mA 以下	最大消費時
使用可能時間	約 50 時間	使用条件:5 秒に 1 回読取り	
環境条件	動作温度	0~40℃	
	保存温度	-20~60℃	
	動作湿度	25~85%	非結露
	保存湿度	20~90%	非結露
	照度条件	白熱灯:3,000 lx 以下 蛍光灯:3,000lx 以下 太陽光:50,000 lx 以下	
	落下	1.5m(6 面各 3 回)コンクリート面	試験値であり保証値ではありません。
無線部	周波数	2400MHz~2483.5MHz	
	規格	IEEE802.15.4 準拠	
	通信距離	最大 30m	使用環境により短くなる場合があります。
	通信速度	115.2Kbps	
	アンテナ	本体内蔵	

■各状態時のLED表示およびブザー鳴動

状態	色	表示	意味	ブザー
充電中	赤	点灯	スキャナを通信ユニットまたはチャージャに置くと点灯して、充電中であることを表します	—
	緑	点灯	充電が完了すると赤から緑に変わります	—
バーコード 読取り	緑	点滅	バーコードの読取/送信が正常に行われたことを表します	ピロ
	赤	点滅	バーコードデータの送信が出来なかったことを表します	ピッ
	橙	点滅	バーコードデータをメモリに蓄積していることを表します	ピロロ
無線接続	緑	点灯	登録が完了したことを表します	ピ—— (登録完了後)
	赤	点灯	登録が失敗したことを表します	ピーピーピー

1-1-5 初期設定

■初期設定（その1）：読取りコード

読取コード	読取	桁数 転送	C/D 計算	C/D 転送	スタート/ス トップ転送	終端コード 付加の設定
UPC-A	○	×	○ ^{*1}	○	—	ENT ^{*5}
UPC-E	○	×	○ ^{*1}	×	—	ENT ^{*5}
JAN/EAN-13	○	×	○ ^{*1}	○	—	ENT ^{*5}
JAN/EAN-8	○	×	○ ^{*1}	○	—	ENT ^{*5}
CODE-39	○ ^{*3}	×	×	○ ^{*2}	○	ENT ^{*5}
NW-7	○ ^{*3}	×	—	—	○ abcd/abcd	ENT ^{*5}
インターリーブド 2of5	○ ^{*4}	×	×	○ ^{*2}	—	ENT ^{*5}
インダストリアル 2of5	○ ^{*4}	×	×	○ ^{*2}	—	ENT ^{*5}
CODE-93	×	×	○ ^{*1}	×	—	ENT ^{*5}
CODE-128	×	×	○ ^{*1}	×	—	ENT ^{*5}
EAN128	×	—	—	—	—	ENT ^{*5}
定期刊行物コード(雑誌) (JAN-13 アドオンコード付)	×	—	○ ^{*1}	○	—	ENT ^{*5}

(注)

- 「○」は「読取る」、「転送する」、「計算する」ことを、「×」は「読取らない」、「転送しない」、「計算しない」ことを、「—」は「設定不可」を示します。
- C/D: チェックデジット
- スタート/ストップ: スタートキャラクタ/ストップキャラクタ

*1: この設定は変更できません。

*2: この設定は「C/D 計算」が「○」のときのみ有効です。

*3: 1桁のバーコードは読取りできません。

*4: 2桁のバーコードは読取りできません。

*5: シリアル・キーボード変換ソフトを使用した場合のみ有効です。

■初期設定（その 2）：読取り、トリガ、ブザー

項目	設定
読取り桁数	桁数を設定しない
読取り方式	単発読み
トリガキー	トリガキーを使用する
トリガキー機能	オートオフモード
読取り時間	2 秒
2 度読み防止タイマー時間	0.5 秒
多段読み	使用しない
ブザー音量	音量 1
ブザー音	音 2

設定変更に関しては、「第 3 章 各種条件の設定」(P.3-2)をご参照ください。

■初期設定（その 3）：無線通信機能

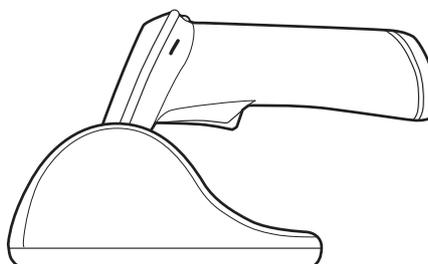
項目	設定
登録	無し
通信圏外メモリ設定	有り
無線チャンネル	CH15
暗号化	有り

1-1-6 充電方法

操作手順

- ① AC アダプタの DC プラグを充電器の DC ジャックに差込みます。
- ② AC コードの電源プラグを AC100V のコンセントに差込みます。
- ③ コードレススキャナを取付けます。

- ・ コードレススキャナをセットする際の「向き」には十分注意してください。

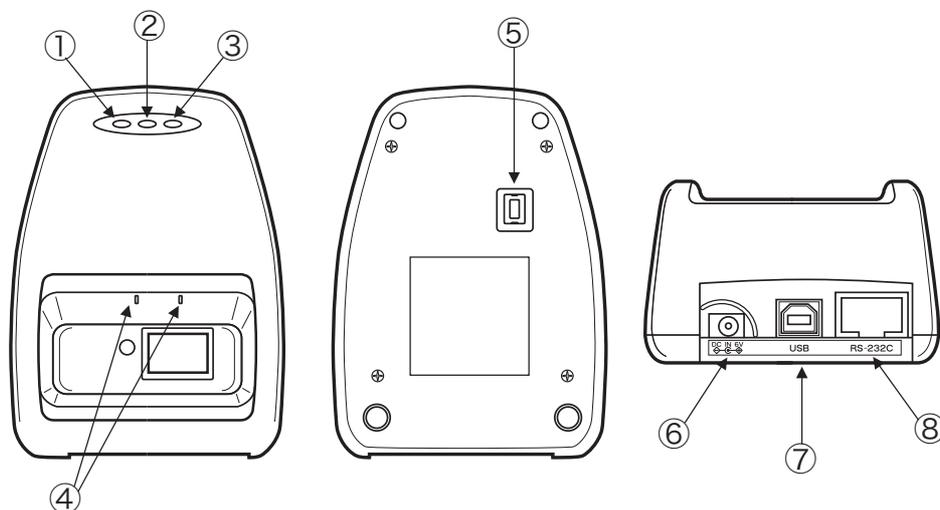


注意

- ・ コードレススキャナの電池電圧が低下すると読取り時の LED が赤に変わりますので、その際は充電をしてください。
- ・ スキャナ内部の充電電池が空の状態のときは、すぐに LED が点灯しないことがあります。スキャナをチャージャへ取付け後、LED が点灯するまで数十秒お待ちください。

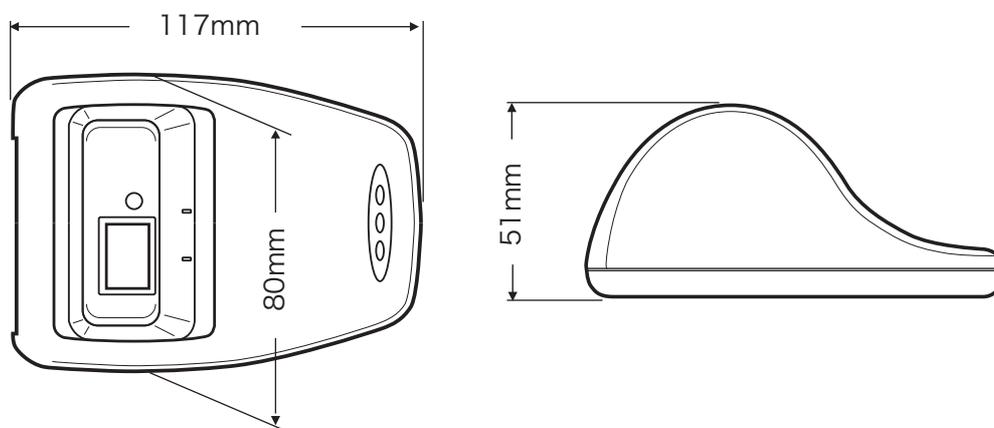
1-2 IU-001 のハードウェア仕様

1-2-1 各部の名称と役割



- ①無線 LED
登録確認用 LED です。
- ②通信 LED
有線側インターフェース、バーコードデータの受信確認用 LED です。
- ③電源 LED
電源確認用 LED です。
- ④給電用端子
スキャナへの給電端子です。
- ⑤DIPSW
機能設定用の DIPSW です。
- ⑥DC ジャック
DC6V 供給用ジャックです。
- ⑦USB コネクタ
USB インターフェース用コネクタです。
- ⑧モジュージャック
RS-232C インターフェース用モジュージャックです。

1-2-2 外形寸法図



1-2-3 仕様

■IU-001 の仕様

項目	仕様		備考
通信部	I/F	USB: 1.1 準拠 (Full-Speed) RS-232C: 9600bps	USB は専用のデバイスドライバが必要です。* (仮想 COM ポート)
表示部	LED: 電源 データ通信 登録	赤 緑/赤 青	
寸法	80(W) × 117(D) × 51(H) mm		
重量	110g		AC アダプタ、ケーブル類は除く。
電源部	電源	AC アダプタ: 6V/400mA	
給電部	スキャナ充電用	DC6V	
環境条件	動作温度	0~40°C	
	保存温度	-20~60°C	
	動作湿度	25~85%	非結露
	保存湿度	20~90%	非結露
	落下	75cm(6面各1回)コンクリート面	試験値であり保証値ではありません。
無線部	周波数	2400MHz~2483.5MHz	
	規格	IEEE802.15.4 準拠	
	通信距離	最大 30m	使用環境により短くなる場合があります。
	通信速度	115.2Kbps	
	アンテナ	本体内蔵	

* 「2-2-2 USBドライバの使用方法」(P.2-5)にてドライバのインストールをしてください。

■各状態時の LED 表示

表示 LED	色	点滅周期	意味
電源 LED	赤	点灯	主電源が入っている状態で点灯します。
通信 LED	緑	200ms	データ送受信時に点滅します。
	赤 ^(※)	500ms	インターフェースケーブル抜け、ホスト側 (PC) 待機時、COM ポートクローズ時に点滅 (連続) します。
無線 LED	青	500ms	スキャナ登録完了時に点灯します。スキャナ登録未完了続時に点滅 (連続) になります。

※ RS-232C で DTR 信号が無い場合は対応出来ません。

※ USB の場合は COM 制御をハードウェアフローにしないとポートクローズには対応しません。

1-2-4 通信設定

項目	設定
ボーレート	9600bps
データビット長	8ビット
パリティビット	無し
ストップビット	1 ストップビット
ハンドシェイク	BUSY/READY
ACK/NAK	無し
CTS 待ち時間	無限

1-3 その他、付属品について

1-3-1 充電電池について

充電電池は、WL7(コードレススキャナ)内部にセットされた状態で出荷されています。そのため、充電電池が放電してしまっている場合には、使用前にIU-001(通信ユニット)で充電して頂けるようお願い致します。



充電時のコードレススキャナ LED 表示については、WL7 仕様の「■各状態時の LED 表示およびブザー鳴動」(P.1-7)を参照してください。



充電時間は、電池が空状態から満充電に至るまで約 2 時間 30 分となります。

●電池交換

充電電池の交換は、弊社にて行います。ご用命の際は、弊社カスタマサポート室までお申し付けください。

注意

スキャナの保守や電池交換の際は、設定内容やメモリに蓄積されたデータが消去されますので予めご了承ください。

1-3-2 通信ユニットについて

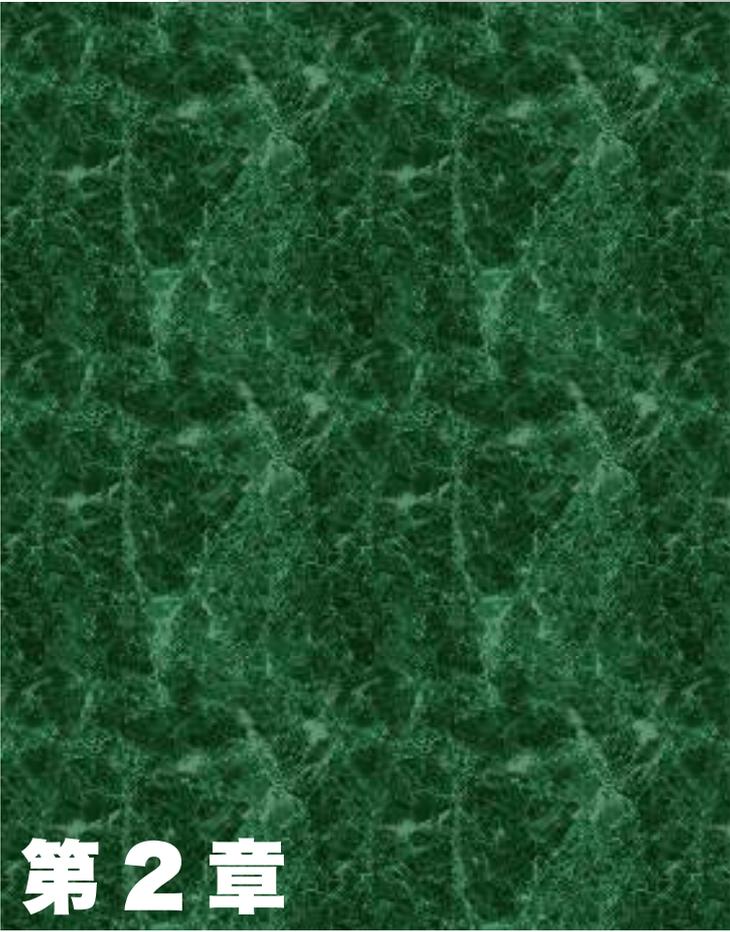
IU-001 はコードレススキャナ専用の充電機能付き通信ユニットです。また、未使用時の置き台として使用します。インターフェースの種類は USB 及び RS-232C をサポートしており、ケーブルを交換することにより変更することができます。インターフェースの識別は供給電圧を監視することで自動的に行います。

1-3-3 ハンドストラップについて

スキャナを移動するとき、またご使用のとき、落下防止用としてストラップをご使用ください。ストラップの取付けは、本機グリップ底部にある取付け金具に取付けてください。

注意

ハンドストラップを持って、本体を振り回さないでください。



第2章

動かしましょう



2-1 基本動作

2-1-1 USB インターフェース時の接続確認

操作手順

- ① USBドライバのインストールをします。
ドライバのインストールについては、「2-2-2 USBドライバの使用方法」(P.2-5)を参照してください。
- ② シリアル・キーボード変換ソフト (WL7KEY.exe) をインストールします。
添付の CD-ROMにあるディレクトリ「WL7KEY」を参照してください。
- ③ 通信ユニットとホスト機器が USB ケーブルで接続されていること、AC アダプタが接続され電源が入っていることを確認します。
- ④ 電源 LED が赤点灯、通信 LED が消灯、無線 LED が青点滅していることを確認します。
- ⑤ タスクトレイにあるシリアル・キーボード変換ソフトのアイコンを右クリックして、ポップアップメニューの USB にチェックマークが付いていることを確認します。
- ⑥ コードレススキャナの動作、バーコードの読取り設定を行います。
初期設定で使用する場合は必要ありません。設定する場合には、「第 3 章 各種条件の設定」を参照し、必要な設定をしてください。
- ⑦ 通信ユニットの背面にある 10 桁の IEEE Address ラベルをコードレススキャナにて読取ります。
- ⑧ コードレススキャナの LED が緑に点滅し登録を開始します。
- ⑨ 登録が成功するとコードレススキャナの LED が緑点滅から点灯に変わり、ブザーが鳴動します。その後コードレススキャナの LED は消灯し、通信ユニットの無線 LED が青点灯に変わります。
登録が失敗すると LED が赤に点滅して警告音が鳴動します。
- ⑩ メモ帳などのアプリケーションソフトを起動させ、文字入力可能な状態にします。
- ⑪ バーコードを読取り、読取ったデータが画面に表示されれば、基本動作の確認が終了です。

登録が失敗したときは、下記を確認してください。

注意

- ・ 通信ユニットに電源が入っているか。
- ・ IU-001 の DIPSW 設定 (P.2-4 参照)。
- ・ 設定の初期化用バーコード (P.3-3 参照) を読んで初期設定状態に戻し、再度設定をやり直してください。

2-1-2 RS-232C インターフェース時の接続確認

操作手順

- ① シリアル・キーボード変換ソフトのインストールをします。
- ② 通信ユニットとホスト機器がRS-232Cケーブルで接続されていること、ACアダプタが接続され電源が入っていることを確認します。
- ③ 電源LEDが赤点灯、通信LEDが赤点滅、無線LEDが青点滅していることを確認します。
- ④ タスクトレイにあるシリアル・キーボード変換ソフトのアイコンを右クリックして、ポップアップメニューから接続したポートをオープンします。
接続したポート(COM1またはCOM2)を選択しチェックマークが付けばオープンされています。
- ⑤ 通信LEDが赤点滅から消灯に変わるのを確認します。
- ⑥ コードレススキャナの動作、バーコードの読取り設定を行います。
初期設定で使用する場合は必要ありません。設定する場合には、各種条件設定を参照し、必要な設定をしてください。
- ⑦ 通信ユニットの背面にある10桁のIEEE Addressラベルをコードレススキャナにて読取ります。
- ⑧ コードレススキャナのLEDが緑に点滅し登録を開始します。
- ⑨ 登録が成功するとコードレススキャナのLEDが緑点滅から点灯に変わり、ブザーが鳴動します。その後コードレススキャナのLEDは消灯し、通信ユニットの無線LEDが青点灯に変わります。
登録が失敗するとLEDが赤に点滅して警告音が鳴動します。
- ⑩ メモ帳などのアプリケーションソフトを起動させ、文字入力可能な状態にします。
- ⑪ バーコードを読取り、読取ったデータが画面に表示されれば、基本動作の確認が終了です。

2-2 有線通信の設定 (IU-001⇔ホスト PC)

2-2-1 IU-001 の DIPSW 設定

通信ユニット底面の DIPSW 設定は下記のようになっています。

DIPSW1: Reserve (OFF 固定)

DIPSW2: Reserve (OFF 固定)

DIPSW3: Reserve (OFF 固定)

DIPSW4: ON に設定するとホスト機器の DTR 信号の検出を無効にします。

無効にした場合インターフェイスは RS-232C が強制的に選択されます。

ホスト機器の RS-232C インターフェイスに DTR 信号が無い場合は ON に設定してください。

DIPSW5: ON にして電源を投入すると、通信ユニットの設定を初期状態 (出荷時設定) に戻します。

DIPSW6: Reserve (OFF 固定)

DIPSW が有効となるのは、通信ユニットの電源 ON 時です。

出荷時の初期設定は全て OFF となっています。

表 1 DIPSW の設定方法

設定項目	DIP-SW					
	SW 1	SW 2	SW 3	SW 4	SW 5	SW 6
検出無効設定	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF
初期状態設定	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF

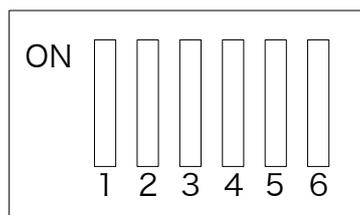


図 2-1 各 DIPSW の配置

2-2-2 USB ドライバの使用方法

IU-001 の USB ドライバを PC へインストールし、使用するための手順について説明します。

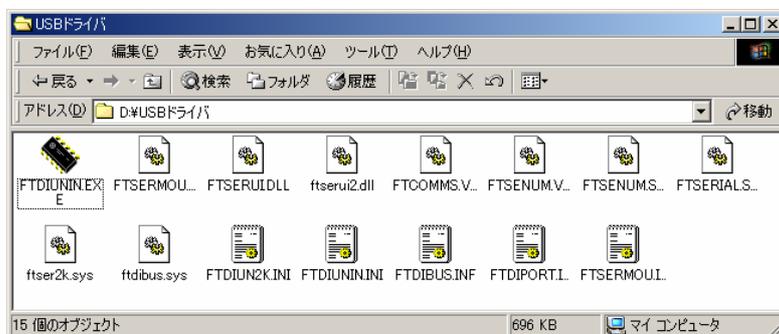
注意

お使いの Windows OS の種類、バージョン、及び、インストールする PC のその他のデバイス環境により以下で説明する画面と相違が出てきますが、大きな違いがある個所のみについて、それぞれの画面で説明をします。

■ファイルの確認、準備

添付の CD-ROM にあるディレクトリ [USB ドライバ] にドライバのインストール作業に必要なファイルがありますので、PC の CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入して下記ファイルが表示されることを確認してください。

以下の説明では CD-ROM が D: ドライブになっている場合で説明します。



■USB ドライバのインストール方法

●Windows2000 の場合

ドライバのインストール作業は2つのドライバファイルをインストールするため、同じような作業を2回行います。

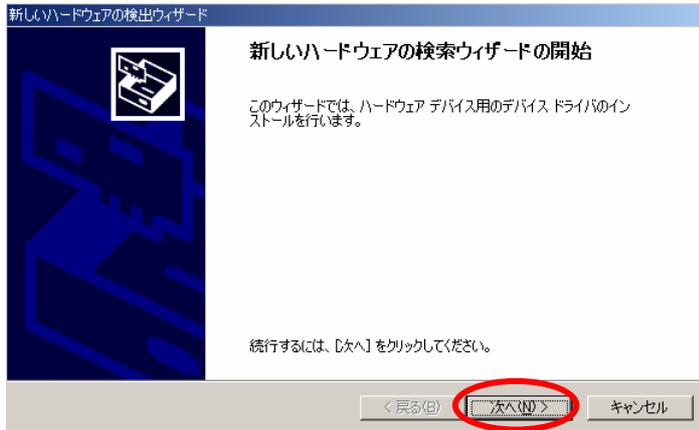
まず、通信ユニットの AC アダプタ電源を入れてから、USB ケーブルを通信ユニットに接続し、次に PC 側へ接続してください。

操作手順

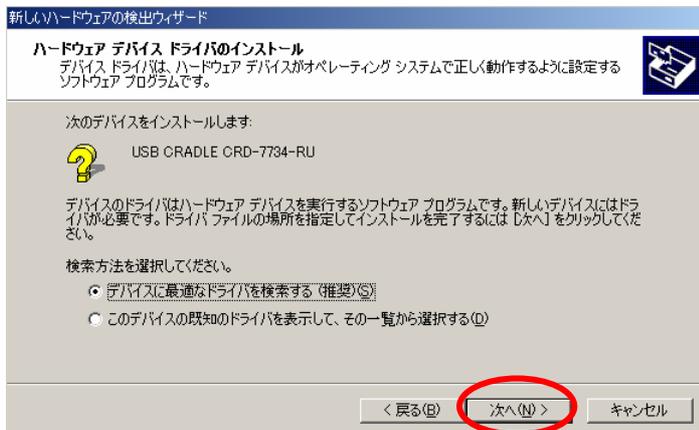
① PC の USB ポートへ初めて通信ユニットを接続すると、次の画面が表示されます。



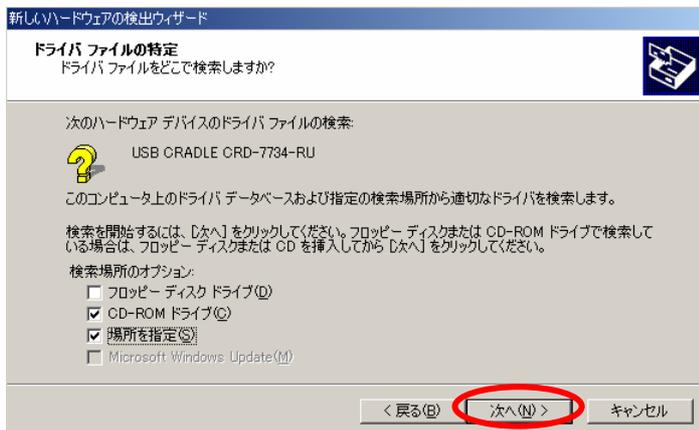
② 次に下記の画面が表示されますので、[次へ]を押してください。



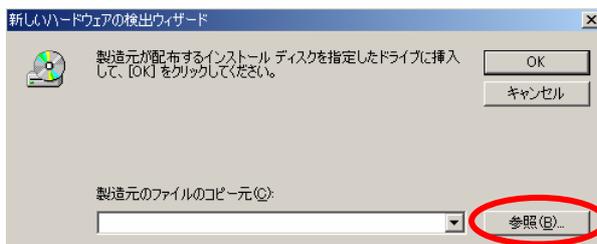
③ 次に、「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択して、[次へ]を押してください。



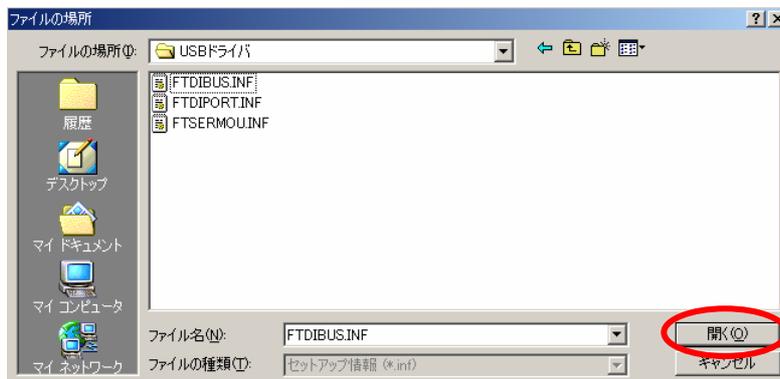
④ ここでは、「CD-ROMドライブ」、「場所を指定」を選択して、[次へ]を押してください。



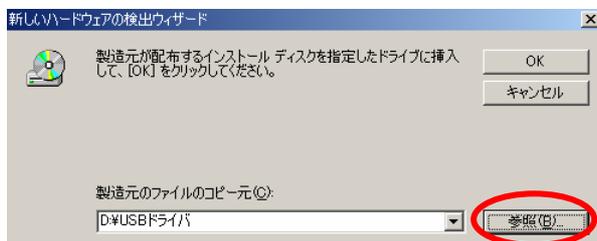
⑤ 下記の画面が表示されたら[参照]を押し、ファイルの選択画面を表示させます。



- ⑥ ファイルの選択画面では [CD-ROM ドライブ] を選択して [USB ドライバ] ディレクトリを指定し、[開く] を押してください。



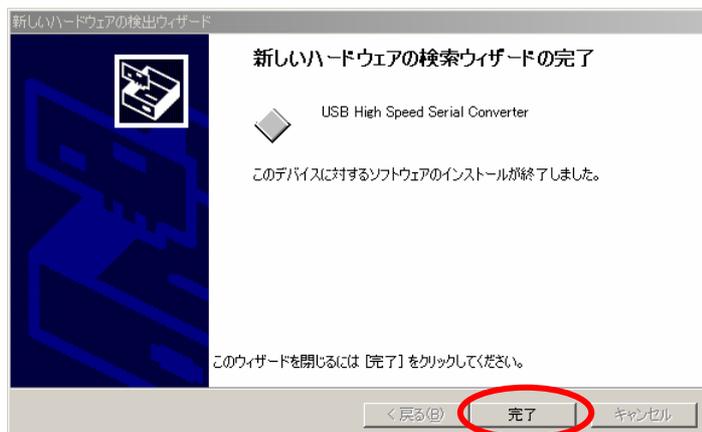
- ⑦ 下の例は [D:\USB ドライバ] にインストール用のファイルがある場合です。選択が完了したら [OK] を押してください。



- ⑧ 下のドライバファイルの検索終了画面が表示されたら、[次へ] を押してください。



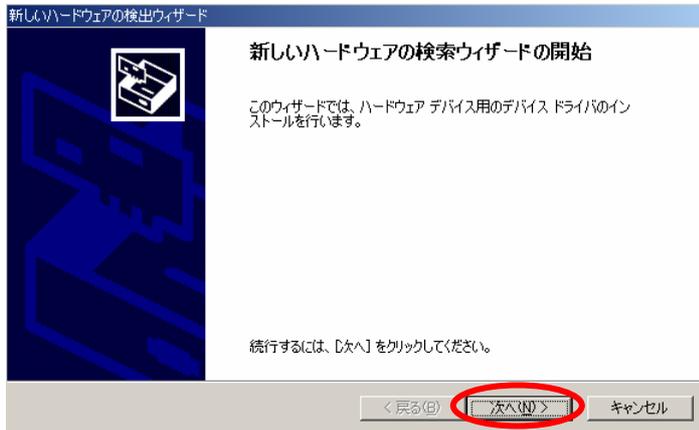
- ⑨ 下の画面が表示されれば、第 1 ステップは終了です。[完了] を押してください。



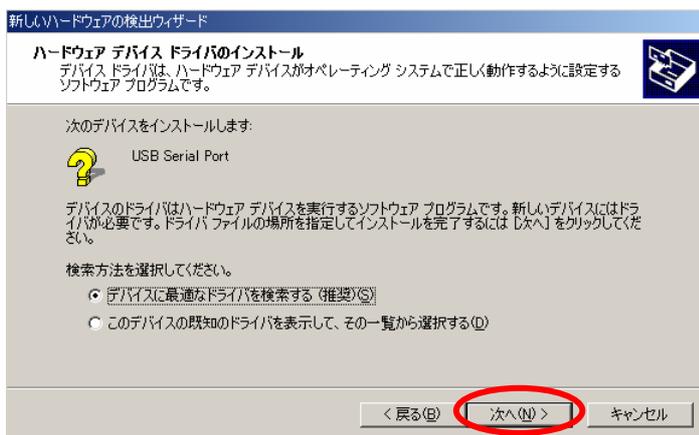
- ⑩ 続いて下記の画面が表示されますので、いままで説明した手順と同様にインストール作業を進めます。



- ⑪ 下記の画面で[次へ]を押してください。



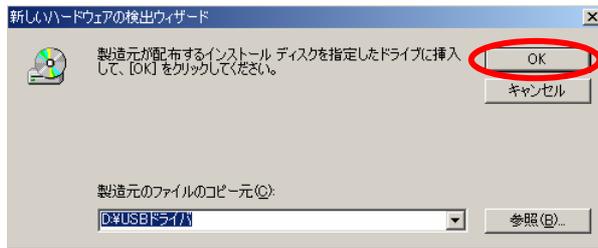
- ⑫ ここで、下記のように[デバイスに最適なドライバを検索する]を選択して、[次へ]を押してください。



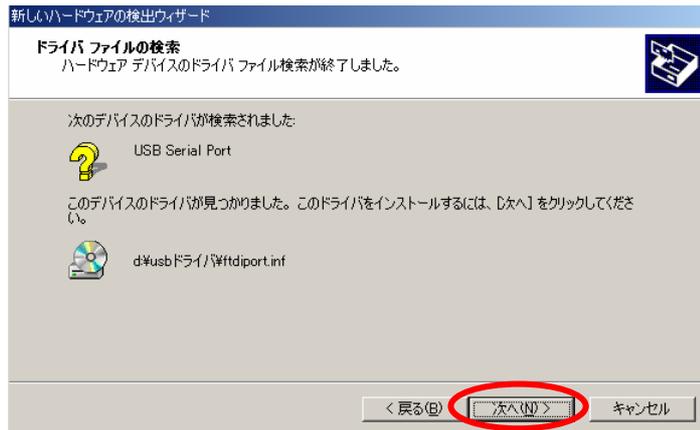
- ⑬ ここで、[CD-ROMドライブ]、[場所を指定]を選択して、[次へ]を押してください。



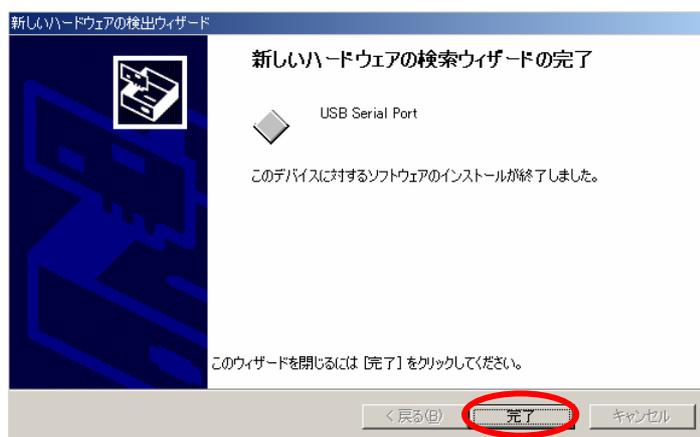
⑭ 下の画面で[OK]を押してください(前回と同じなので参照は必要ありません)。



⑮ 下の画面で[次へ]を押してください。



⑯ 下の画面が出てきて[完了]を押せば、第2ステップも終わりです。

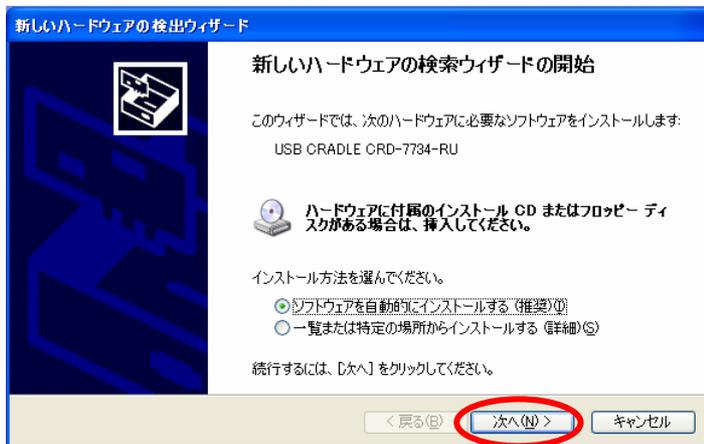


以上で Windows 2000 でのドライバのインストールは終了です。

●Windows XP の場合

操作手順

①PCへ初めて通信ユニットを挿すと下記の画面が出てきますので、[ソフトウェアを自動的にインストールする]を選択して[次へ]を押してください。



ここで Windows XP の場合は以下の警告メッセージが出てきますが[続行]を押してください。



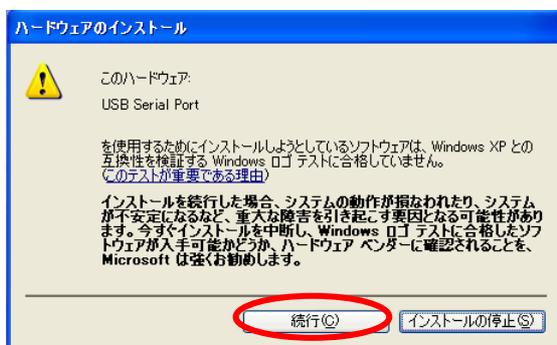
②インストールが続行されて次の画面になりますので[完了]を押してください。



③ 続いて下記の画面になりますので同様に[次へ]を押してください。



④ ここで以下の警告メッセージが表示されますが、[続行]を押してください。



⑤ インストールが続行されて次の画面になりますので[完了]を押してください。



以上で Windows XP でのドライバのインストールは終了です。

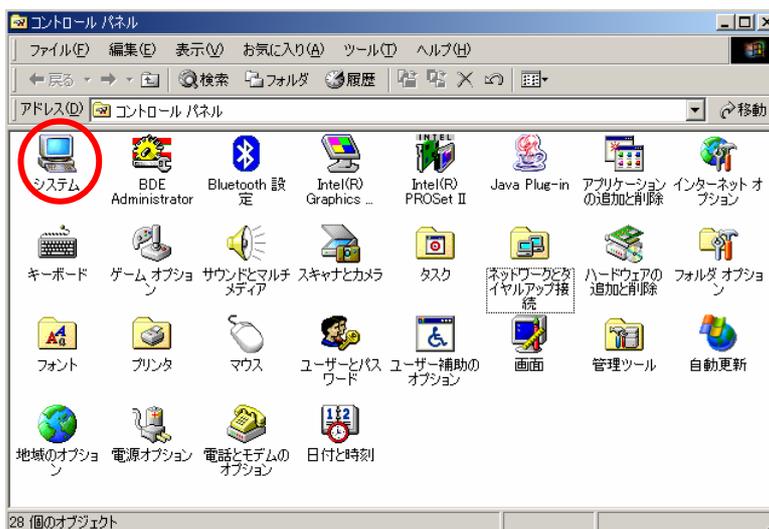
■COMポート番号の確認方法

インストールが終了したら、以下の手順で割り当てられたシリアルポートの COM ポート番号を確認してください。

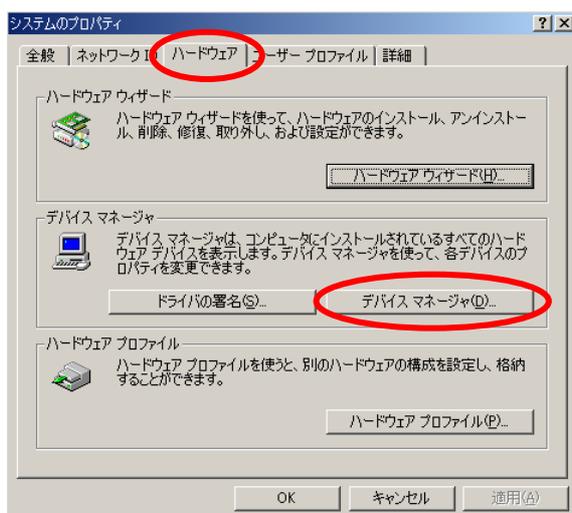
操作手順

- ①メニューバーで、スタート→設定→コントロールパネルを開いてください。
ここから先は OS により画面が異なります

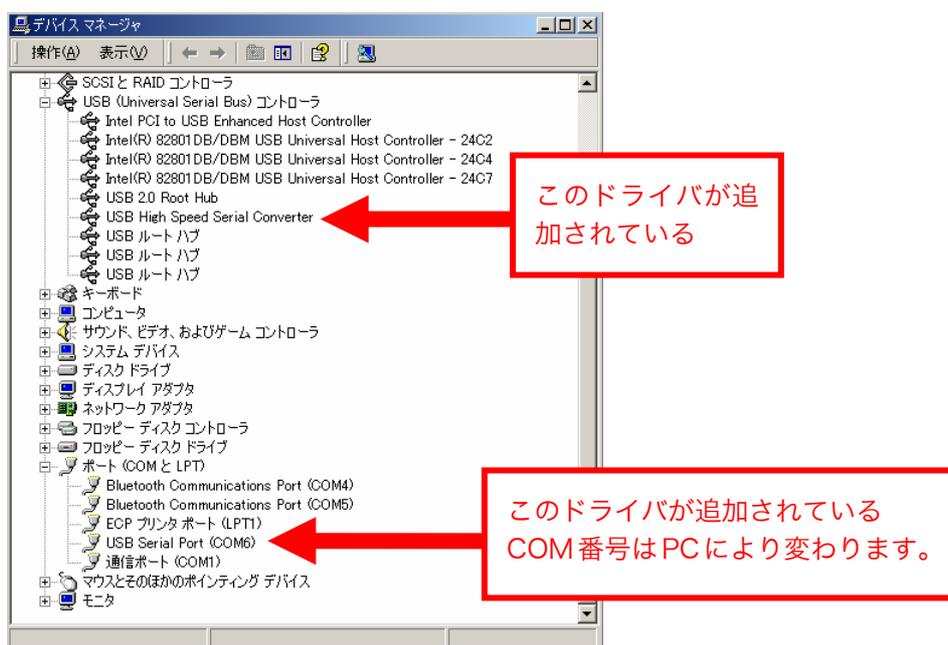
●Windows2000 の場合



- ①次に表示される画面で[ハードウェアタブ]を選択し、続いて[デバイスマネージャ]を選択してください。



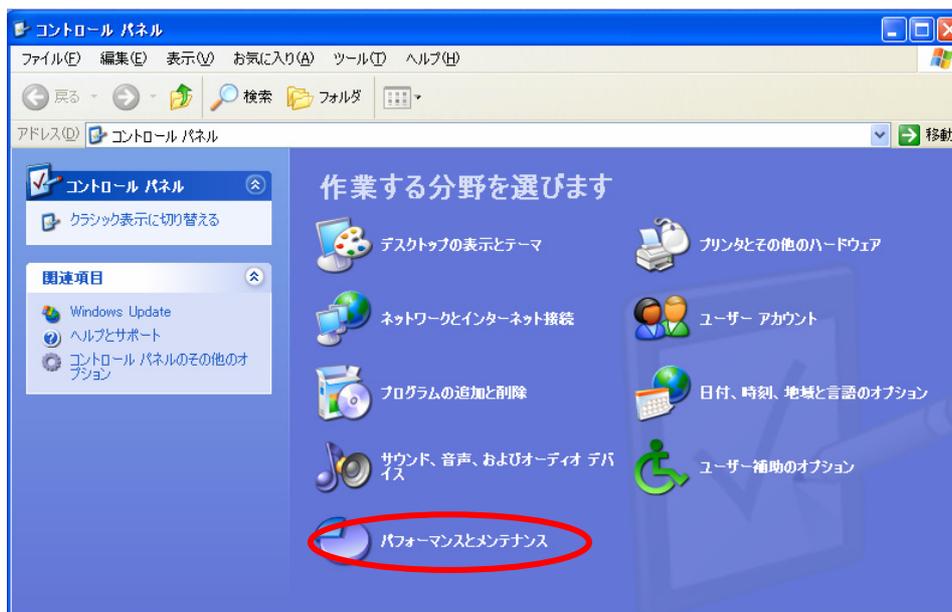
- ② 次に下のような画面が表示されますので、下記の2つのドライバが追加されていることを確認してください。
又、COMポート番号はアプリケーション実行時に必要になりますのでメモしておいてください。



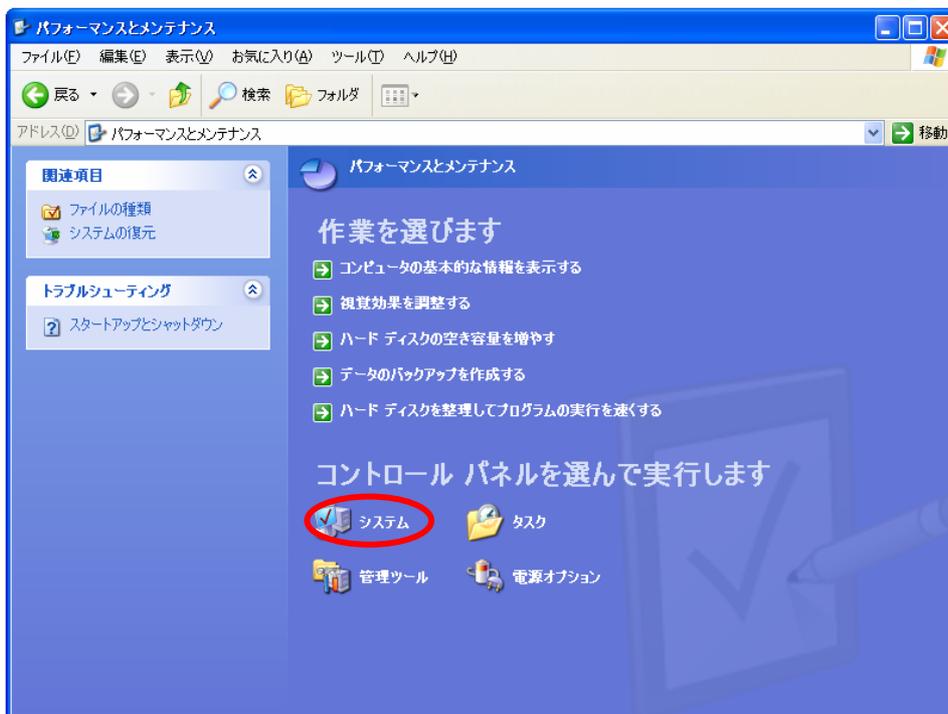
以上で Windows2000 の場合での COMポート番号の確認は終了です。

●Windows XP の場合

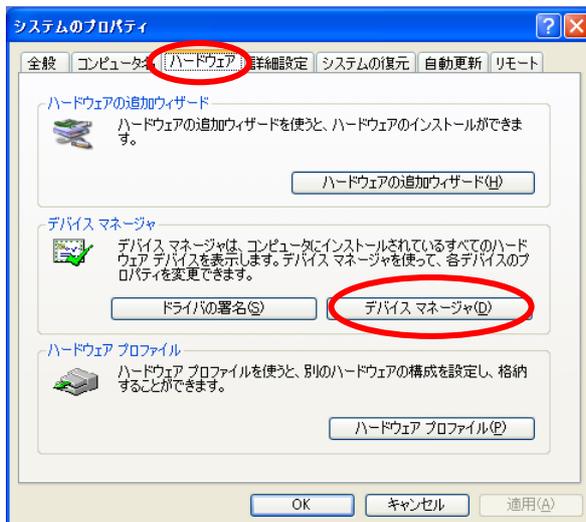
- ① コントロールパネルは下のような画面になります。
ここで、[パフォーマンスとメンテナンス]を選択してください。



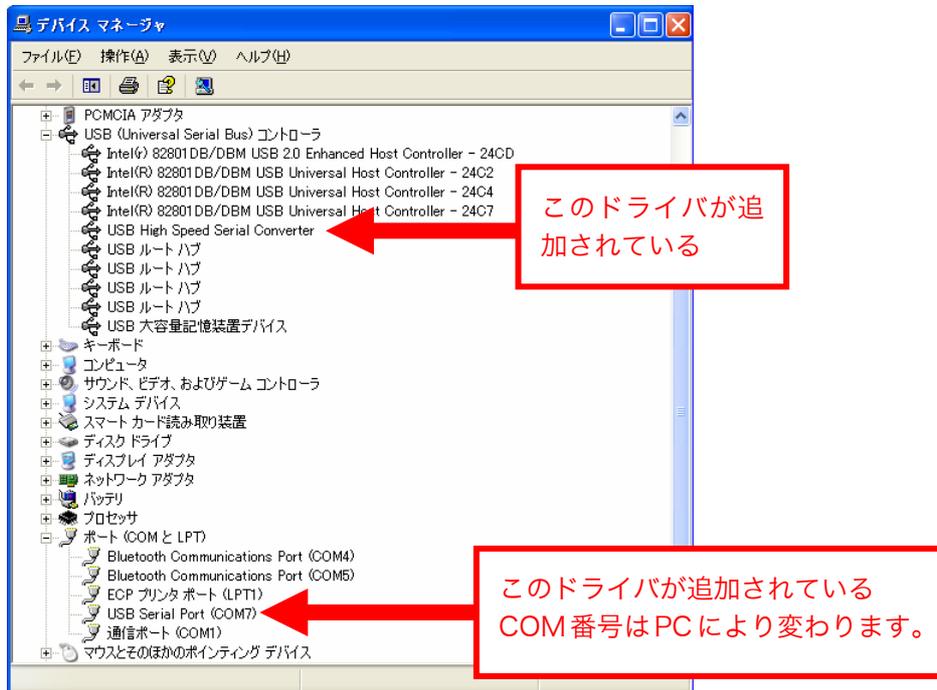
② 下の画面で[システム]を選択してください。



③ 次に表示される画面で[ハードウェア]タブを選択し、[デバイスマネージャ]を選択してください。



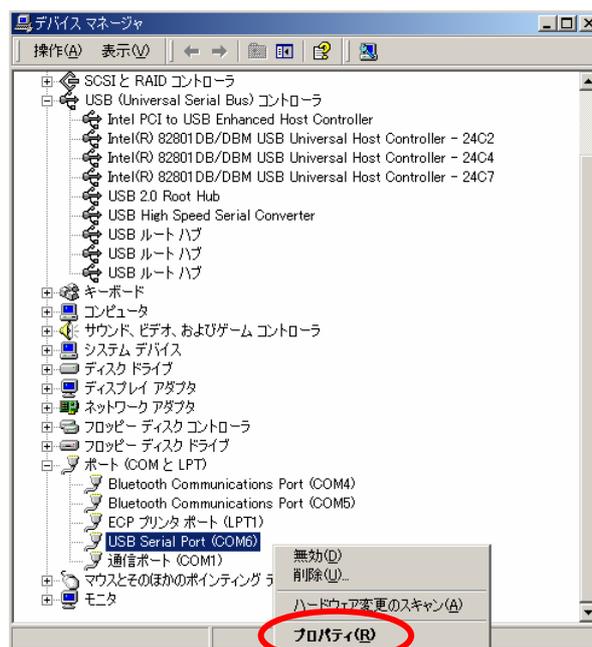
- ④ 次に下のような画面が表示されますので、下記の2つのドライバが追加されていることを確認してください。又、COM ポート番号はアプリケーション実行時に必要になりますのでメモしておいてください。



以上で Windows XP の場合での COM ポート番号の確認は終了です。
今確認した COM ポート番号で PC と USB クレードルとの仮想シリアル通信が出来ます。
従来のシリアル通信ソフトで COM ポート番号を確認して番号へ変えればそのまま動作が可能です。

■COM ポート番号の変更方法

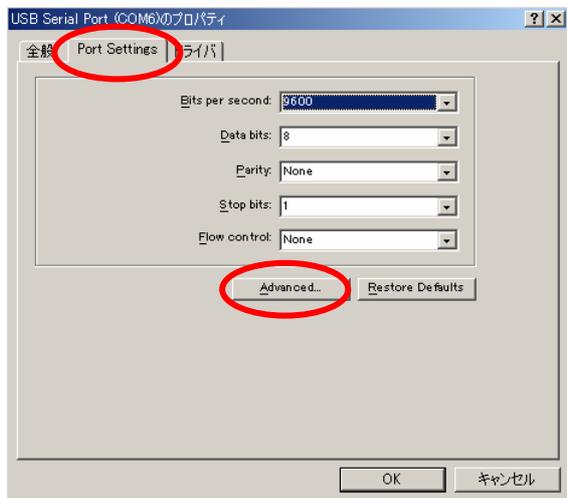
COM ポート番号は、「COM 番号の確認」の最後の画面から変更できます。
インストールしたドライバを選択して右クリックし、表示されたメニューから[プロパティ]を選択してください。



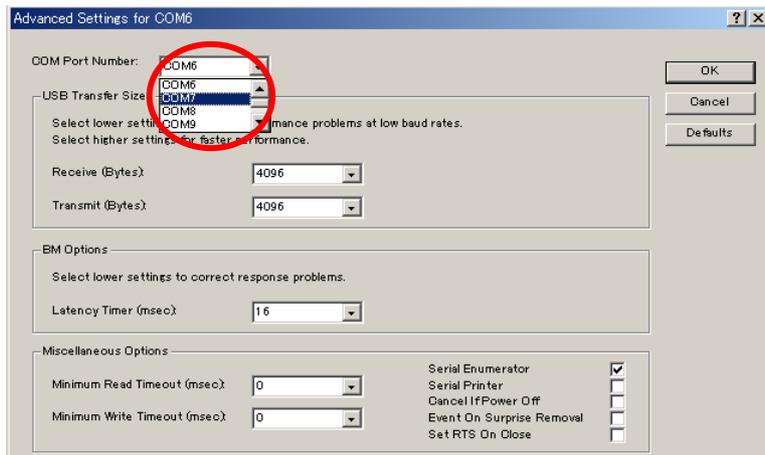
以下、COM6 から COM7 へ変更する場合の操作手順を説明します。

操作手順

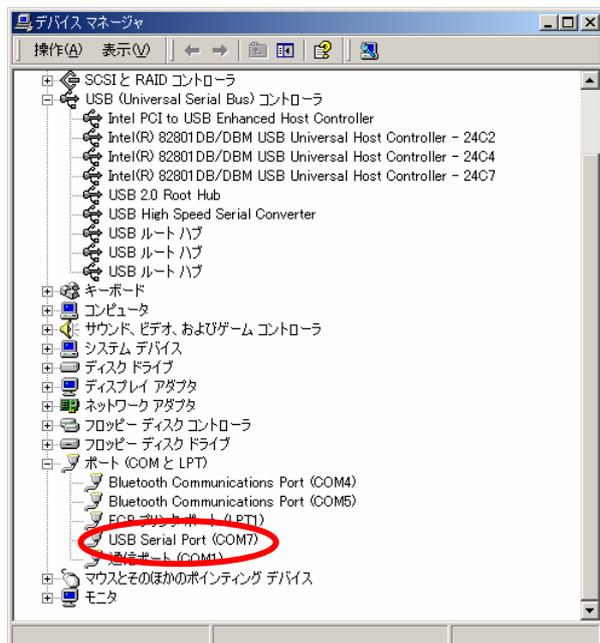
① USB Serial Port のプロパティの [Port Setting] タブで [Advanced] を選択してください。



② [COM Port Number] で新しい番号を選択してください。



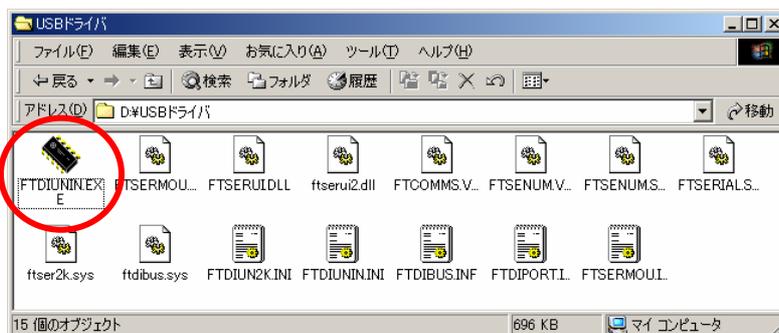
- ③ COMポート番号の選択が出来たら順次[OK]を押して下の画面になるまで戻ます。
下の画面で COMポート番号が変更されているか確認してください。



■ USB ドライバのアンインストール方法

操作手順

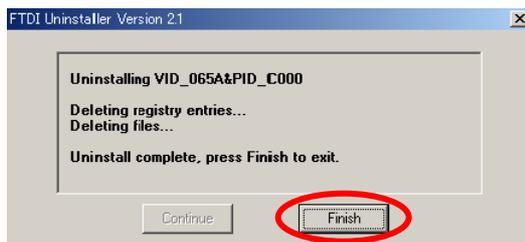
- ① USB ドライバを PC からアンインストールするときは、CD-ROM の[USB ドライバ]ディレクトリにある FTDIUNINEXE を実行してください。



- ② 下の画面で [Continue] を押してください。



③ 下の画面で[Finish]を押してください。



以上でドライバのアンインストールは終了です。



シリアル・キーボード変換ソフト (WL7KEY.exe) のインストール、使用方法については添付の CD-ROM にあるディレクトリ「WL7KEY」を参照してください。

2-3 無線通信の設定 (WL7⇔IU-001)

2-3-1 無線仕様

WL7は無線インターフェースとしてIEEE802.15.4規格に準拠した無線方式を採用しています。

- ・ 通信時の接続構成
1(通信ユニット)対1(コードレススキャナ)
- ・ 接続時の動作モード
アドレス認識方式(登録したアドレスを認識して通信を行います。)
- ・ 暗号化
無線通信データはCTRモードにより暗号化されています。
- ・ 通信距離
最大30m(通信距離は使用環境によって変動します)

2-3-2 無線通信の設定

無線通信の設定には以下の3つがあります。

- ・ スキャナの登録(P.2-19)
- ・ 通信チャンネルの設定(P.2-20)
- ・ 通信圏外メモリ設定(P.2-22)

2-3-2-1 スキャナの登録

通信ユニットの背面にあるIEEE Address A40XXXXXXXX(10桁)のバーコードを読み取ることでスキャナの登録を行います。通信ユニットが電源ONの状態ではバーコードを読み取ると、スキャナのLEDが緑に点滅し登録を開始します。

登録が成功するとスキャナのLEDが緑点滅から点灯に変わり、ブザーが鳴動します。その後コードレススキャナのLEDは消灯し、通信ユニットの無線LEDが青点灯に変わります。

登録が失敗するとコードレススキャナのLEDが赤点滅し警告音が鳴動します。

注意

なお、通信ユニットの設定を初期状態にしたり、スキャナ設定の初期化を行った場合、登録は抹消されますので再登録してください。

2-3-2-2 通信チャンネル設定

登録したコードレススキャナで表 2-1 の設定用バーコードを読み取ることにより、スキャナと通信ユニットの通信チャンネルを設定します。

設定は、以下の手順で行ってください。

操作手順

- ① 設定開始のバーコードを読む。ブザーが「ピッ、ピッ、ピッ…」となり続けます。
- ② 任各種設定用のバーコードを読んでください。
ブザーが鳴っている間は、複数の設定用バーコードを読んで同時設定が可能です。
- ③ 設定終了のバーコードを読んでください。
設定終了になるとブザーが鳴り止みます。



多数ある設定用バーコードの中から確実に 1 つだけを読ませたい場合、設定開始バーコードを読んだ後にトリガキーをダブルクリックしてください。断続ブザー音が変わり読取り方法が変更されます。変更後は、レーザ光をバーコードにあててからトリガキーを押して読取りを行います。再度トリガキーをダブルクリックすると通常の読取りに戻ります。必要に応じてご使用ください。

●通信設定用バーコード

登録したスキャナで表 2-1 のバーコードを読み込むことにより通信チャンネルを変更することができます。

表 2-1

通信圏外メモリ設定 ★は初期設定	
設定開始	 Z 7
通信の設定	CH11  C H 1 1
	CH12  C H 1 2
	CH13  C H 1 3
	CH14  C H 1 4
	★CH15  C H 1 5
	CH16  C H 1 6
	CH17  C H 1 7
	CH18  C H 1 8
	CH19  C H 1 9
	CH20  C H 2 0
	CH21  C H 2 1
	CH22  C H 2 2
	CH23  C H 2 3
	CH24  C H 2 4
	CH25  C H 2 5
	CH26  C H 2 6
設定終了	 Z 7

2-3-2-3 通信圏外メモリ設定

通信圏外メモリを設定すると通信圏外での読み取りが可能になりデータはスキャナのメモリに蓄積されます。

メモリ蓄積件数は約 500 件です。又、蓄積データがある場合は通信圏内に入ると自動的に蓄積データを送信します。

注意

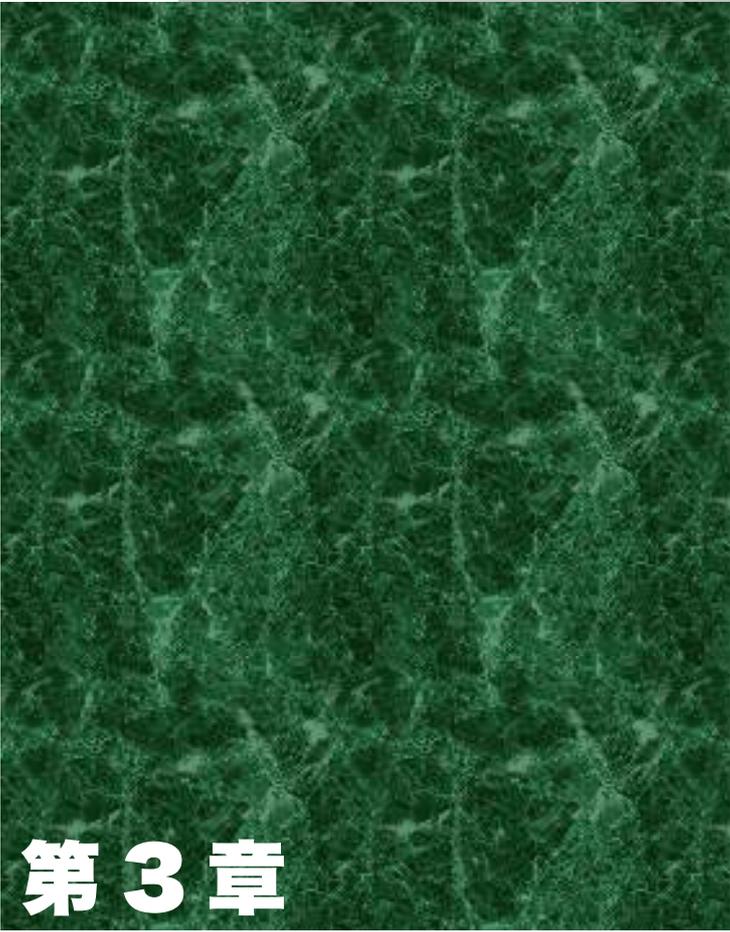
圏外メモリを設定しないと圏外での読み取りは出来ません。
自動データ送信は2秒間隔で行われます。

表 2-2

通信圏外メモリ設定 ★は初期設定	
設定開始	
通信圏外の設定	★メモリする 
	メモリしない 
設定終了	

注意

- ・通信圏外メモリ設定が無しの設定の場合、圏外での読み取りはできなくなります。
- ・通信圏外で読み取り中にメモリフルになると、長い警告音が鳴動しバーコードの読み取りはできなくなります。
- ・通信圏外では2秒間隔で自動的に接続機器へ送信を試みます。通信圏内に復帰すると、通信圏外メモリ設定が有りの場合、内部メモリのバーコードデータを送信します。
- ・通信圏外で3秒間トリガを押下すると、再送信を中止して、メモリ内部のバーコードデータは消去されます。
- ・通信圏外動作中にメニューバーコードで通信圏外メモリを無しに設定すると内部メモリは消去されます。



第3章

各種条件の設定



3-1 設定の詳細

ここでは「1-1-5 初期設定」(P.1-7)の各項目の詳細と設定変更の方法を説明します。

設定項目	参照ページ
設定の初期化	P.3-3
読取りコード	
読取りコードの設定	P.3-4
桁数転送の設定	P.3-6
C/D(チェックデジット)計算の設定	P.3-8
C/D(チェックデジット)転送の設定	P.3-9
スタート/ストップキャラクタ転送の設定	P.3-11
読取り設定	
読取り桁数の設定	P.3-12
読取り方式の設定	P.3-13
トリガキーの設定	P.3-14
トリガキー機能の設定	P.3-15
読取り時間の設定	P.3-16
2度読み防止タイマー時間の設定	P.3-17
多段読みの設定	P.3-18
ブザー音量の設定	P.3-19
ブザー音の設定	P.3-20
データ出力設定	
終端コードの付加設定	P.3-21

3-2 設定の初期化

出荷時には、あらかじめ「1-1-5 初期設定」(P.1-7)に示される設定になっています。
各種設定を「初期設定」状態に戻したい場合は下のバーコードを上から順に読取ってください。

表 3-1

初期状態に戻します	
設定開始	 Z 7
初期設定	 U 1
設定終了	 Z 7

3-3 読取りコード

3-3-1 読取りコードの設定

表 3-2 では、設定したコード以外は読めなくなります。複数のコードを設定する場合は、まず表 3-2 で 1 種類のみ設定し、残りは表 3-3 で読みたいコードを追加設定してください。

表 3-2

各コードのみ設定します（設定したコード以外は読めません） ★印は初期設定	
設定開始	
UPC のみ読取り	
JAN/EAN のみ読取り	
CODE-39 のみ読取り	
NW7 のみ読取り	
インターリブド 2of5 のみ読取り	
インダストリアル 2of5 の読取り	
CODE-93 のみ読取り	
CODE-128 のみ読取り	
設定終了	

表 3-3 では、読取りを行いたいコードを追加していきます。

表 3-3

各コードごとに読取り可能にします ★印は初期設定	
設定開始	
★UPC の読取り可	
★JAN/EAN の読取り可	
★CODE-39 の読取り可	
★NW7 の読取り可	
★インターリブド 2of5 の読取り可	
★インダストリアル 2of5 の読取り可	
CODE-93 の読取り可	
CODE-128 の読取り可	
設定終了	

●例：「CODE-39」と「NW-7」の2種類だけを読取り可能にしたい場合

表 3-2 で「CODE-39のみ読取り」を設定します。次に表 3-3 で「NW-7 の読取り可」を追加設定します。この様な方法でこの2種類のコードだけ読取り可能に設定できます。

3-3-2 桁数転送の設定

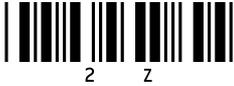
読取りデータの直前に桁数をつけて転送できます。

桁数 (2桁)	読取りデータ	端末コード (最大8桁)
------------	--------	-----------------

表 3-4

各コードごとに桁数を転送する設定にします	
設定開始	
CODE-39 桁数転送する	
NW-7 桁数転送する	
インターリブド 2of5 桁数転送する	
インダストリアル 2of5 桁数転送する	
CODE-93 桁数転送する	
CODE-128 桁数転送する	
設定終了	

表 3-5

各コードごとに桁数を転送無しの設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
CODE-39 桁数転送無し	
NW-7 桁数転送無し	
インターリブド 2of5 桁数転送無し	
インダストリアル 2of5 桁数転送無し	
CODE-93 桁数転送無し	
CODE-128 桁数転送無し	
★全てのコードの桁数転送無し	
設定終了	

3-3-3 C/D (チェックデジット) 計算の設定

表 3-6

各コードごとに C/D の計算をしない設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
★CODE-39 の C/D 計算しない	
★インターリブド 2of5 とインダストリアル 2of5 の C/D 計算しない	
設定終了	

表 3-7

各コードごとに C/D の計算をする設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
CODE-39 の C/D 計算する	
インターリブド 2of5 とインダストリアル 2of5 の C/D 計算する	
設定終了	

3-3-4 C/D (チェックデジット) 転送の設定

表 3-8

各コードごとに C/D を転送しない設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
UPC-A の C/D 転送しない	
★UPC-E の C/D 転送しない	
JAN/EAN の C/D 転送しない	
CODE-39 の C/D 転送しない (C/D 計算する時のみ有効)	
インターリブド 2of5 とインダストリアル 2of5 の C/D 転送しない (C/D 計算する時のみ有効)	
設定終了	

注意 表 3-8 での「有効」とは設定変更可能という意味です。

表 3-9

各コードごとに C/D を転送する設定にします ★印は初期設定	
設定開始	
★UPC-A の C/D 転送する	
UPC-E の C/D 転送する	
★JAN/EAN の C/D 転送する	
★CODE-39 の C/D 転送する (C/D 計算する時のみ有効)	
★インターリブド 2of5 とインダストリアル 2of5 の C/D 転送する (C/D 計算する時のみ有効)	
設定終了	

注意 表 3-9 での「有効」とは設定変更可能という意味です。

3-3-5 スタート/ストップキャラクタ転送の設定

表 3-10

各コードごとにスタート/ストップキャラクタ転送しない設定にします ★印は初期設定	
設定開始	 Z 7
CODE-39 のスタート/ ストップキャラクタを転送しない	 D 0
NW-7 のスタート/ ストップキャラクタを転送しない	 F 0
設定終了	 Z 7

表 3-11

各コードごとにスタート/ストップキャラクタ転送する設定にします ★印は初期設定	
設定開始	 Z 7
★CODE-39 のスタート/ ストップキャラクタを転送する	 D 1
★NW-7 のスタート/ ストップキャラクタを転送する	 F 4
設定終了	 Z 7

NW-7: スタート/ストップ キャラクタ abcd/abcd を転送します。

3-4 読取り設定

3-4-1 読取り桁数の設定

コードを指定して読取り桁数を固定することができます。

- 桁数を設定するには

操作手順

- ①表 3-14 の「桁数を設定する」または「桁数設定の追加」を読んだ後、設定したいコード/桁数のバーコードを読取ると、そのコードについて読取り桁数が固定されます。
- ②①で「桁数を設定する」を読んだ場合は、今まで登録されていた桁数設定はクリアされます。「桁数設定の追加」を読んだ場合は、今まで登録されていた桁数設定に追加することができます。
- ③設定は 8 種類まで登録可能で、これを超えるとバーコードを読取らなくなります。「設定終了」を読んで終了してください。

注意

一度「桁数を設定しない」設定にすると、桁数設定はすべてクリアされます。UPC、JAN/EAN、定期刊行物コードは桁数の設定ができません。なお、読取コードによっては、桁数により読取りできないものもありますので、ご注意ください（P.1-7 ※3、※4 参照）。

表 3-16

読取り桁数を設定します ★印は初期設定	
設定開始	
★桁数を設定しない	
桁数を設定する	
桁数設定の追加	
設定終了	

3-4-2 読取り方式の設定

- ・ 単発読み

トリガキーを使用することを前提とした方式で、トリガキーを押してバーコードを読むとその時点で読取り口の照明が消灯します。

- ・ 複数読み

読取り口の照明が点灯中であれば、続けてバーコードを読むことができます。ただし、同じバーコードの場合は、指定した時間読取り口をバーコードから離して2度読み防止を解除する必要があります。

表 3-17

読取り方式を設定します ★印は初期設定	
設定開始	
★単発読み	
複数読み	
設定終了	

3-4-3 トリガキーの設定

トリガキーを使用するか、しないかを設定することができます。

トリガキーを使用しない場合、読取り口は点灯したままとなり複数読みを行います。

表 3-18

読取り方式を設定します ★印は初期設定	
設定開始	
★トリガキーを使用する	
トリガキーを使用しない	
設定終了	

注意

トリガキーを使用する設定でないと、読取り方式の「単発読み」は設定できません。

トリガキーを使用しない設定にした場合、読取り方式の設定は自動的に複数読みに変更されます。

3-4-4 トリガキー機能の設定

トリガキーを使用する場合、スイッチの機能を設定することができます。どちらの設定の場合も、読取り方式と読取り時間の設定は有効です。

- ・ オートオフモード
トリガキーを押すと、読取り口の照明を点灯し読取りを開始します。
- ・ オルタネートモード
トリガキーを押す毎に、読取り口の照明の点灯、消灯を繰り返します。

表 3-19

トリガキー機能の設定をします ★印は初期設定	
設定開始	 Z 7
★オートオフモード	 S D
オルタネートモード	 S J
設定終了	 Z 7

3-4-5 読取り時間の設定

読取りを開始してから読取り口の照明が消灯するまでの時間を設定することができます。消灯するまでにバーコードを読取ると、経過時間を無効にしその時点から新たに時間を計測します。

「トリガキー押下中のみ点灯」の場合は、トリガキー機能の設定に関わらず、トリガキーを押している間は読取り口の照明が点灯し続けスイッチを離すと消灯します。

なお、どの設定の場合も、読取り方式の設定は有効です。

表 3-20

読取り時間を設定します ★印は初期設定	
設定開始	 Z 7
トリガキー押下中のみ点灯	 Y 0
1 秒	 Y 1
★2 秒	 Y 2
4 秒	 Y 4
6 秒	 Y 5
10 秒	 Y 7
無限	 Y 8
設定終了	 Z 7

3-4-6 2度読み防止タイマー時間の設定

複数読みの場合、読取り口の照明が点灯中は続けてバーコードを読めますが、同じバーコードの場合、一定の時間読取り口をバーコードから離して2度読み防止を解除する必要があります。

この時間を設定することができます。

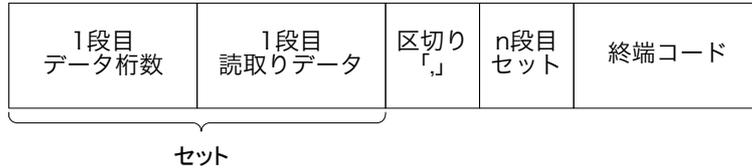
表 3-21

2度読み防止タイマー時間を設定します ★印は初期設定	
設定開始	
無し	
0.05 秒	
0.1 秒	
0.2 秒	
0.3 秒	
0.4 秒	
★0.5 秒	
0.6 秒	
設定終了	

3-4-7 多段読みの設定

設定された段数のバーコード読取りを終了した時点で、一括でデータを出力することができます。

各段の読取りデータにはコード別のプリフィックス、桁数、サフィックスを付加することが可能です。これをセットとして1段目から指定段数を接続し、コモンプリフィックス、サフィックスを付加して出力します。各段の間はデータの区切り記号としてカンマ「,」を挿入します。(プリフィックス/サフィックス/桁数の付加の有無はそれぞれの設定によります。)



接続できるのは2~5段まで、読取りデータの合計が120バイトまでです。それを超えるデータを読んだ時は全てのデータが破棄されエラーブザーが鳴ります。

また、各段のバーコードを決まった時間内(最長で2秒以内、読取り時間の設定が1秒の場合には1秒以内)に読取らないと、それまでに読んだすべてのデータが破棄されます。その場合初めから読み直してください。

表 3-22

多段読みを設定します ★印は初期設定	
設定開始	
★使用しない	
2 段	
3 段	
4 段	
5 段	
設定終了	

3-4-8 ブザー音量の設定

表 3-23

ブザー音量を設定します ★印は初期設定	
設定開始	 Z 7
★音量 1 (大)	 T 0
音量 2	 T 1
音量 3	 T 2
音量 4 (小)	 T 3
設定終了	 Z 7

3-4-9 ブザー音の設定

表 3-24

ブザー音を設定します ★印は初期設定	
設定開始	 z 7
音 1	 w 1
★音 2	 w 2
音 3	 w 3
設定終了	 z 7

3-5 データ出力設定

3-5-1 終端コード付加の設定

読取りコードに関わらず、共通で出力データの末尾に、「ENT」、「TAB」、「↓」、「→」のキーデータが付加することができます。表 3-25 で、設定開始 → 終端コード付加を設定する → 表 3-26 で付加したいキーデータを読取り → 設定終了 で付加されます。この設定では、今まで登録されていた付加キーデータの後に、追加登録することが可能です。

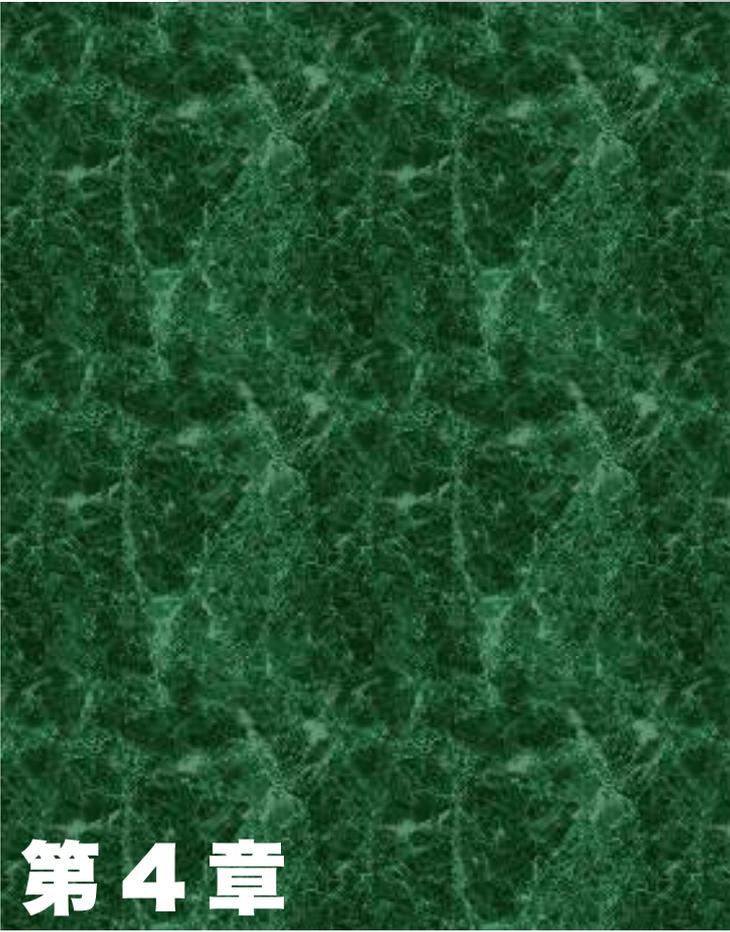
付加されたキーデータをクリアするときは、終端コード付加をクリアするで、一括クリアとなります。

表 3-25

終端コード付加の設定	
設定開始	 Z 7
終端コード付加を設定する	 0 A
終端コード付加をクリアする	 0 Z
設定終了	 Z 7

表 3-26

端末コードの設定	
ENT	 \$ 0 D
TAB	 \$ 0 9
↓	 \$ 0 6
→	 \$ 0 7



第4章

EAN-128 読取り設定

本章は EAN-128 専用です。
他のコードの設定などには使用できませんのでご注意ください。

4-1 EAN-128 読取り設定

初期設定では、EAN-128 は使用しないとなっています (EAN-128 は読んでも通常の CODE-128 として出力されます)。

EAN-128 を使用する場合は、出力形式により下の設定メニューコードを読んでください。

● 「EAN-128 を使用する」

表 4-1

EAN-128 を使用するに設定します	
設定開始・終了	
出力形式 1	「4-3 出力形式 1 の設定方法」 (P.4-6) 参照
出力形式 2	
出力形式 3	

●出力形式 1

読取りデータからユーザーの指定する AI のデータフィールドのみを抽出し指定されたフォーマットで出力します。

AI は最大 10 種類まで指定でき、その AI 毎にヘッダ (最大 2 桁)、ターミネータ (最大 2 桁) を指定できます。

AI の中でデータの小数点位置を記している物があるが (AI 310 等) それについてはデータに小数点を付加して出力します。

「出力形式 1」の設定方法については「4-3 出力形式1の設定方法」(P.4-6)をご覧ください。

●出力形式 2

読取りデータからデータフィールドのみ抽出して出力します。

●出力形式 3

先頭の FNC1 を”]C1”に、それ以外の FNC1 を GS (ASCII 1DH) に変換します。

その他のデータ (AI, データフィールド) は通常の CODE-128 と同様に出力します。

注意

出力形式 3 では EAN-128 のデータ区切り位置を識別しないため、区切り文字等の付加、必要データの抽出等はいけません。

EAN-128 ラベルフォーマット



● 「EAN-128 を使用しない」

EAN-128 を使用しない場合は以下のメニューコードを読んでください。

初期設定ではこの設定になっています。

表 4-2

EAN-128 を使用しないに設定します	
設定開始・終了	
EAN-128 を使用しない	

4-2 区切り文字の設定

以下のメニューコードを読んだ後に「4-5 直接入力コード表」(P.4-9)を読取ることにより0桁から2桁までの任意のデータを指定することができます。

表 4-3

区切り文字の設定を行います	
設定開始・終了	
データフィールド内のデータとデータの区切り文字を設定	
エレメントストリングとエレメントストリングの区切り文字を設定	
通常 F N C 1 はデータとして出力しないがこれを設定することにより F N C 1 をこの設定文字に置き換えます (2 つめ以降の F N C 1 のみ)	

出力形式 1 の設定については、「4-3 出力形式1の設定方法」(P.4-6)をご覧ください。

区切り文字は 2 桁まで設定できるので直接入力コードを続けて 2 回読むと 2 桁の文字が付加されます。区切り文字の設定を初期化するには、「3-2 設定の初期化」(P.3-3)を実行してください。

注意 初期設定を実行すると「EAN-128 は使用しない」になります。

処理の遅いホストの場合、データ欠けが起こる場合があります。
その場合は、以下のデレイを設定してください。

表 4-4

デレイタイムを設定します ★印は初期設定	
設定開始・終了	 Z 7
★区切り文字後送信デレイ =0msec	 / I
区切り文字後送信デレイ =10msec	 / J
区切り文字後送信デレイ =20msec	 / K
区切り文字後送信デレイ =30msec	 / L
★区切り文字後送信デレイ=1倍	 / M
区切り文字後送信デレイ=2倍	 / N
区切り文字後送信デレイ=3倍	 / O
区切り文字後送信デレイ=4倍	 / P

4-3 出力形式 1 の設定方法

表 4-5

出力形式 1 の設定を行う ★印は初期設定	
設定開始・終了	
出力形式 1 の設定	

注意 この時点で現在の出力形式 1 設定はクリアされます。

操作手順

- ① 初めに表 4-5 の設定開始・終了のメニューコードを読み下の出力形式1のメニューコードを読んでください。

- ② 希望する出力順に表 4-6 メニューコードを読ませます。設定可能 AI 数は最大 10 個までで、設定したい回数分 A~C を繰り返し行ってください。
 - A: すべての AI に 1 対 1 に対応するメニューコード(/****) (「4-6 出力形式 1 設定用コード」(P.4-23) 参照) を読んでください。
 - B: ヘッダの設定を行います。直接入力コードラベルを読んでください。
 最小 0 桁から最大 2 桁までのヘッダを設定できます。
 桁数毎の必要設定メニューは「表 4-6」の通りです。
 - C: ターミネータの設定を行います。直接入力コードラベルを読んでください。
 最小 0 桁から最大 2 桁までのヘッダを設定できます。
 桁数毎の必要設定メニューは「表 4-6」の通りです。

- ③ 出力させたい全ての AI とターミネータを設定した時点で「設定開始・終了」のメニューコードを読んで終了させてください。

表 4-6

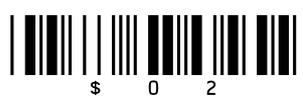
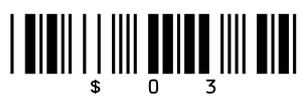
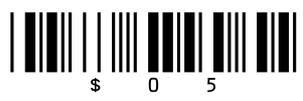
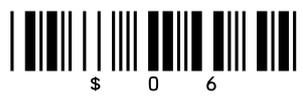
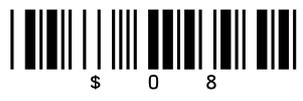
設定桁数	内容	設定
0 桁	右のバーコードを 2 回読む	
1 桁	任意の直接入力コードラベル 1 つと右のバーコードを 1 回読む	
2 桁	任意の直接入力コードラベル 2 つを読む	

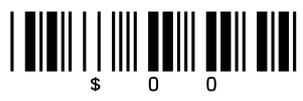
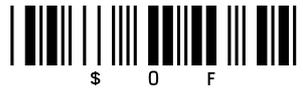
桁数設定用メニューコードは、直接入力コードラベル表の各頁上段にもあります。

4-4 その他の設定

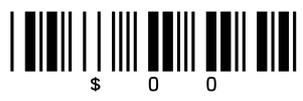
その他の設定 ★印は初期設定	
設定開始・終了	
★YYMMDD 中の DD の表示 = YYMMDD をそのまま出力	
YYMMDD 中の DD の表示 = DD=00 ならば DD を出力しない	
★EAN-128 出力形式 1 の時に AI が見つからなければヘッダ、ターミネータ、エレメントストリングセパレータを出力する	
EAN-128 出力形式 1 の時に AI が見つからなければヘッダ、ターミネータ、エレメントストリングセパレータを出力しない	
★プレデファインドレンジス AI 以外のデータフィールドが固定長のエレメントストリング (例 AI 8005) を可変長として扱う	
プレデファインドレンジス AI 以外のデータフィールドが固定長のエレメントストリング (例 AI 8005) c を固定長として扱う。また、その AI 直後のフィールドセパレータは出力しない	
★CODE-128 から EAN-128 への変換ができない時、何も出力しない	
CODE-128 から EAN-128 への変換ができない時、CODE-128 として出力する	

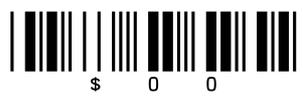
4-5 直接入力コード表

設定開始・終了		 2 7
設定桁数 0桁→2回、1桁→1回、 2桁→下のコードを2回		 \$ 0 0
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
Ctrl + A	Ctrl + A	 \$ 0 1
Ctrl + B	Ctrl + B	 \$ 0 2
Ctrl + C	Ctrl + C	 \$ 0 3
Ctrl + D	←	 \$ 0 4
Ctrl + E	↑	 \$ 0 5
Ctrl + F	↓	 \$ 0 6
Ctrl + G	→	 \$ 0 7
Ctrl + H	Back Space	 \$ 0 8

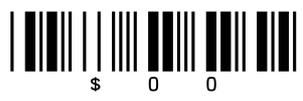
設定開始・終了		
設定桁数 0 桁→2 回、1 桁→1 回、 2 桁→下のコードを 2 回		
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
Ctrl + I	Tab	
Ctrl + J	Ctrl + J	
Ctrl + K	Ctrl + K	
Ctrl + L	Ctrl + L	
Ctrl + M	Enter	
Ctrl + N	Ctrl + N	
Ctrl + O	F1	
Ctrl + P	F2	
Ctrl + Q	F3	

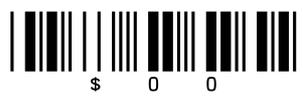
設定開始・終了		 Z 7
設定桁数 0桁→2回、1桁→1回、 2桁→下のコードを2回		 S 0 0
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
Ctrl + R	F4	 S 1 2
Ctrl + S	F5	 S 1 3
Ctrl + T	F6	 S 1 4
Ctrl + U	F7	 S 1 5
Ctrl + V	F8	 S 1 6
Ctrl + W	F9	 S 1 7
Ctrl + X	F10	 S 1 8
Ctrl + Y	F11	 S 1 9
Ctrl + Z	F12	 S 1 A

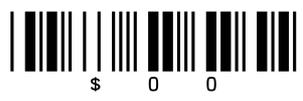
設定開始・終了		
設定桁数 0 桁→2 回、1 桁→1 回、 2 桁→下のコードを 2 回		
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
ESC	ESC	
スペース	スペース	
!	!	
"	"	
#	#	
\$	\$	
%	%	
&	&	
'	'	

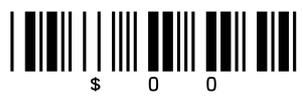
設定開始・終了		 Z 7
設定桁数 0桁→2回、1桁→1回、 2桁→下のコードを2回		 S 0 0
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
(( S 2 8
))	 S 2 9
*	*	 S 2 A
+	+	 S 2 B
,	,	 S 2 C
-	-	 S 2 D
.	.	 S 2 E
/	/	 S 2 F
0	0	 S 3 0

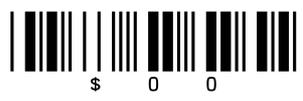
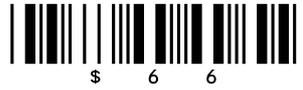
設定開始・終了		
設定桁数 0 桁→2 回、1 桁→1 回、 2 桁→下のコードを 2 回		
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
1	1	
2	2	
3	3	
4	4	
5	5	
6	6	
7	7	
8	8	
9	9	

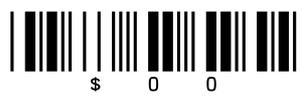
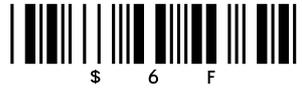
設定開始・終了		 2 7
設定桁数 0桁→2回、1桁→1回、 2桁→下のコードを2回		 \$ 0 0
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
:	:	 \$ 3 A
;	;	 \$ 3 B
<	<	 \$ 3 C
=	=	 \$ 3 D
>	>	 \$ 3 E
?	?	 \$ 3 F
@	@	 \$ 4 0
A	A	 \$ 4 1
B	B	 \$ 4 2

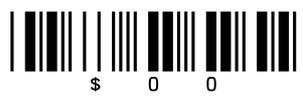
設定開始・終了		
設定桁数 0桁→2回、1桁→1回、 2桁→下のコードを2回		
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
C	C	
D	D	
E	E	
F	F	
G	G	
H	H	
I	I	
J	J	
K	K	

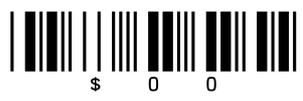
設定開始・終了		 z 7
設定桁数 0桁→2回、1桁→1回、 2桁→下のコードを2回		 s 0 0
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
L	L	 s 4 C
M	M	 s 4 D
N	N	 s 4 E
O	O	 s 4 F
P	P	 s 5 0
Q	Q	 s 5 1
R	R	 s 5 2
S	S	 s 5 3
T	T	 s 5 4

設定開始・終了		
設定桁数 0 桁→2 回、1 桁→1 回、 2 桁→下のコードを 2 回		
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
U	U	
V	V	
W	W	
X	X	
Y	Y	
Z	Z	
[[
¥	¥	
]]	

設定開始・終了		 2 7
設定桁数 0桁→2回、1桁→1回、 2桁→下のコードを2回		 \$ 0 0
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
^	^	 \$ 5 E
-	-	 \$ 5 F
`	`	 \$ 6 0
a	a	 \$ 6 1
b	b	 \$ 6 2
c	c	 \$ 6 3
d	d	 \$ 6 4
e	e	 \$ 6 5
f	f	 \$ 6 6

設定開始・終了		
設定桁数 0 桁→2 回、1 桁→1 回、 2 桁→下のコードを 2 回		
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
g	g	
h	h	
i	i	
j	j	
k	k	
l	l	
m	m	
n	n	
o	o	

設定開始・終了		 2 7
設定桁数 0桁→2回、1桁→1回、 2桁→下のコードを2回		 \$ 0 0
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
p	p	 \$ 7 0
q	q	 \$ 7 1
r	r	 \$ 7 2
s	s	 \$ 7 3
t	t	 \$ 7 4
u	u	 \$ 7 5
v	v	 \$ 7 6
w	w	 \$ 7 7
x	x	 \$ 7 8

設定開始・終了		
設定桁数 0 桁→2 回、1 桁→1 回、 2 桁→下のコードを 2 回		
キャラクタ (シリアル・キーボード変換ソフト起動時)		メニューバーコード
キー出力 FUNK OFF	キー出力 FUNK ON	
y	y	
z	z	
{	{	
		
}	}	
~	~	
DEL	DEL	

4-6 出力形式 1 設定用コード

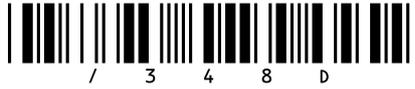
設定開始・終了		 <small>z 7</small>
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
00	×	 <small>/ 0 0 F F</small>
01	×	 <small>/ 0 1 F F</small>
02	×	 <small>/ 0 2 F F</small>
10	○	 <small>/ 1 0 F F</small>
11	×	 <small>/ 1 1 F F</small>
12	×	 <small>/ 1 2 F F</small>
13	×	 <small>/ 1 3 F F</small>
15	×	 <small>/ 1 5 F F</small>
17	×	 <small>/ 1 7 F F</small>

設定開始・終了		
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
20	×	
21	○	
22	○	
23L ※1	×	
240	○	
241	○	
250	○	
251	○	
30	○	
310D ※2	×	

設定開始・終了	 z 7	
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
311D ※2	×	 / 3 1 1 D
312D ※2	×	 / 3 1 2 D
313D ※2	×	 / 3 1 3 D
314D ※2	×	 / 3 1 4 D
315D ※2	×	 / 3 1 5 D
316D ※2	×	 / 3 1 6 D
320D ※2	×	 / 3 2 0 D
321D ※2	×	 / 3 2 1 D
322D ※2	×	 / 3 2 2 D
323D ※2	×	 / 3 2 3 D

設定開始・終了		
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
324D ※ 2	×	
325D ※ 2	×	
326D ※ 2	×	
327D ※ 2	×	
328D ※ 2	×	
329D ※ 2	×	
330D ※ 2	×	
331D ※ 2	×	
332D ※ 2	×	
333D ※ 2	×	

設定開始・終了	 z 7	
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
334D ※2	×	 / 3 3 4 D
335D ※2	×	 / 3 3 5 D
336D ※2	×	 / 3 3 6 D
337D ※2	×	 / 3 3 7 D
340D ※2	×	 / 3 4 0 D
341D ※2	×	 / 3 4 1 D
342D ※2	×	 / 3 4 2 D
343D ※2	×	 / 3 4 3 D
344D ※2	×	 / 3 4 4 D
345D ※2	×	 / 3 4 5 D

設定開始・終了		
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
346D ※ 2	×	
347D ※ 2	×	
348D ※ 2	×	
349D ※ 2	×	
350D ※ 2	×	
351D ※ 2	×	
352D ※ 2	×	
353D ※ 2	×	
354D ※ 2	×	
355D ※ 2	×	

設定開始・終了		 z 7
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
356D ※2	×	 / 3 5 6 D
357D ※2	×	 / 3 5 7 D
360D ※2	×	 / 3 6 0 D
361D ※2	×	 / 3 6 1 D
362D ※2	×	 / 3 6 2 D
363D ※2	×	 / 3 6 3 D
364D ※2	×	 / 3 6 4 D
365D ※2	×	 / 3 6 5 D
366D ※2	×	 / 3 6 6 D
367D ※2	×	 / 3 6 7 D

設定開始・終了		
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
368D ※ 2	×	
369D ※ 2	×	
37	○	
390D ※ 2	○	
391D ※ 2	○	
392D ※ 2	○	
393D ※ 2	○	
400	○	
401	○	
402	○	

設定開始・終了	 z 7	
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
403	○	 / 4 0 3 F
410	×	 / 4 1 0 F
411	×	 / 4 1 1 F
412	×	 / 4 1 2 F
413	×	 / 4 1 3 F
414	×	 / 4 1 4 F
415	×	 / 4 1 5 F
420	○	 / 4 2 0 F
421	○	 / 4 2 1 F
422	○	 / 4 2 2 F

設定開始・終了		
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
8001	<input type="radio"/>	
8002	<input type="radio"/>	
8003	<input type="radio"/>	
8004	<input type="radio"/>	
8005	<input type="radio"/>	
8006	<input type="radio"/>	
8007	<input type="radio"/>	
8018	<input type="radio"/>	
8020	<input type="radio"/>	
8100	<input type="radio"/>	

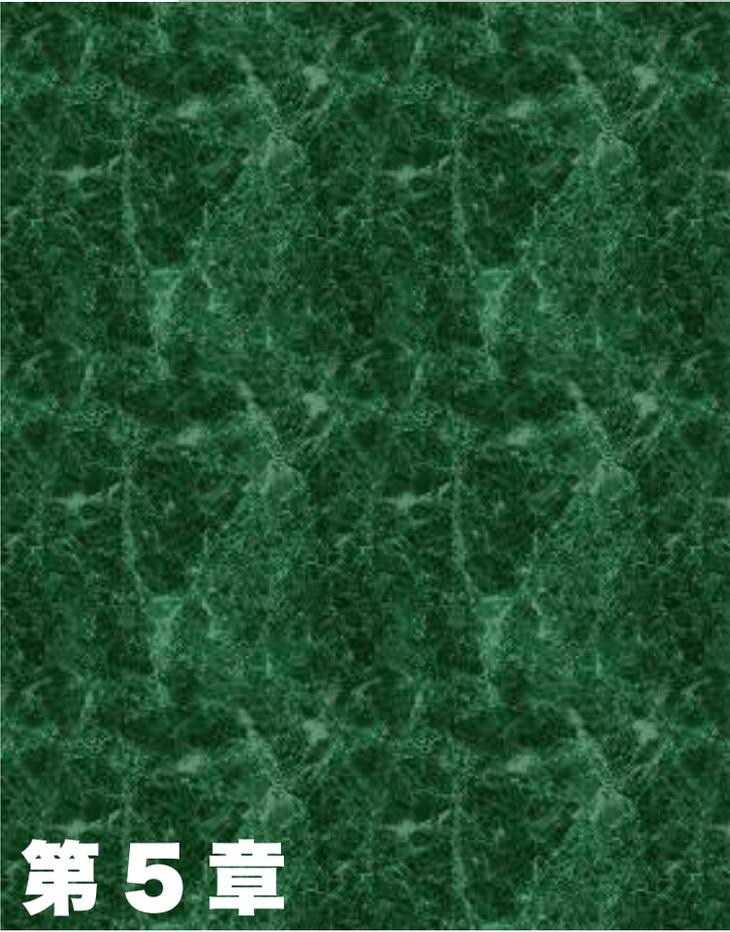
設定開始・終了	 z 7	
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
8101	○	 / 8 1 0 1
8102	○	 / 8 1 0 2
90	○	 / 9 0 F F
91	○	 / 9 1 F F
92	○	 / 9 2 F F
93	○	 / 9 3 F F
94	○	 / 9 4 F F
95	○	 / 9 5 F F
96	○	 / 9 6 F F
97	○	 / 9 7 F F

第 4 章 EAN-128 読取り設定

設定開始・終了		
AI	フィールドセパレータ (FNC1)	メニューバーコード
98	<input type="radio"/>	
99	<input type="radio"/>	

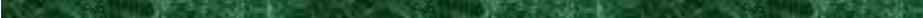
※1 このLはレングスを表しています

※2 このDは小数点位置を表しています



第5章

定期刊行物コード（雑誌）の読取り



5-1 定期刊行物コード (雑誌) の読取り設定

本章では、定期刊行物コード(雑誌)に関する設定について説明します。

●定期刊行物コード (雑誌) とは

雑誌用バーコードのコード体系が、2004 年 6 月より従来の「共通雑誌コード」から「定期刊行物コード(雑誌)」へ変更されました。この定期刊行物コードは、先頭 3 桁が「491」固定の 13 桁 JAN コードと 5 桁のアドオンコードで構成されます。

5-1-1 定期刊行物コードの読取り設定

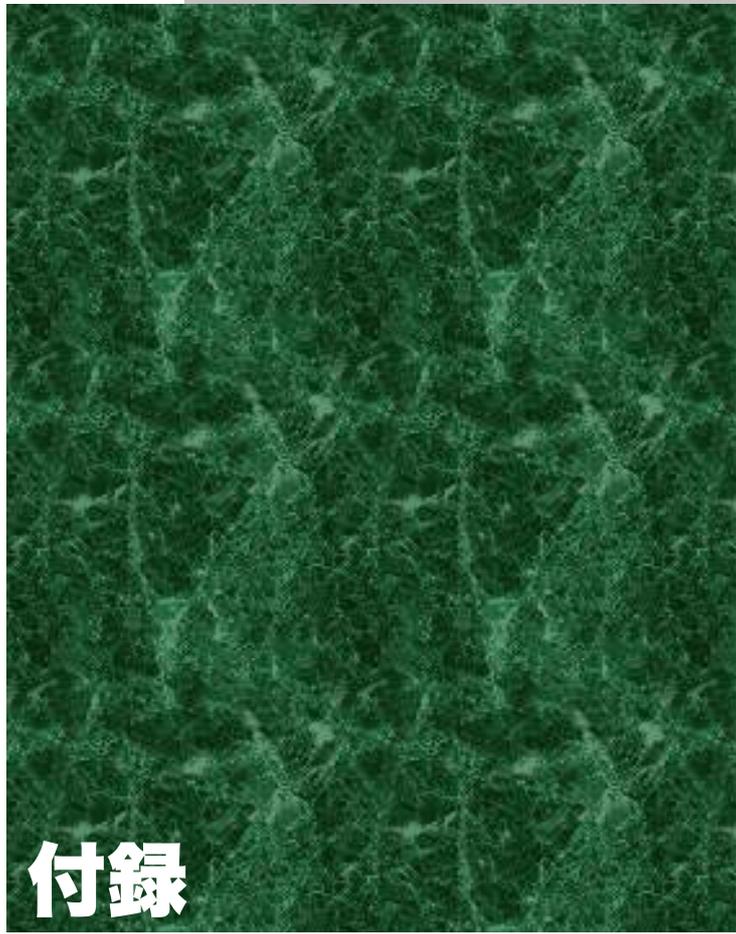
- ・ 定期刊行物コード読取り可
「491」で始まる JAN-13 は 5 桁のアドオンコード付きのみを読取ります。
- ・ 定期刊行物コード読取り禁止
「491」で始まる JAN-13 は 5 桁のアドオンコード付きでもアドオンコード無しとして読取り、JAN-13 として出力します。

表 5-1

定期刊行物コードの読取りを設定します ★印は初期設定	
設定開始	
定期刊行物コード読取り可	
★定期刊行物コード読取り禁止	
設定終了	

5-1-2 定期刊行物コードの C/D (チェックデジット) 転送設定

定期刊行物コードの C/D 転送の設定は「3-3-4 C/D(チェックデジット)転送の設定」(P.3-9)の「JAN/EAN」にて設定を行います。



サンプルバーコード



付録-1 サンプルバーコード

NW-7



CODE39



CODE39(C/Dつき)



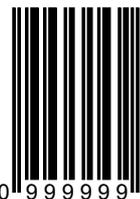
JAN13



JAN8



UPC-E



インターリブド 2of5



インターリブド 2of5 (C/Dつき)



CODE128



EAN-128



FAX 用ユーザ登録フォーム

この度は弊社製品をご購入頂き、ありがとうございます。
お買上頂きました製品をご利用するにあたり、ユーザ登録をお願い致します。
ユーザ登録は弊社が製品の保証をするために必要なものですので、ぜひ登録をお願い致します。
またご登録いただく事で、商品・サービスに関連した情報等をご提供させていただきます。

下記フォームに必要事項をご記入の上、FAXにてお送りください。

FAX : 03-5463-8586

御社名			
部署		御担当者	
住所			
TEL		FAX	
Mail アドレス			
ご購入先			
ご購入区分	新規購入 ・ 追加購入		
ご利用用途	生産管理・在庫管理・出荷管理・トレーサビリティ・品質管理 その他 ()		
シリアル番号	製品名とシリアル番号をご記入ください。		

コードレススキャナ
WL7-USB
ユーザーズマニュアル

2007年5月 第4版発行
Copyright©2006 Welcat Inc.

株式会社ウェルキャット

<http://www.welcat.co.jp/>
info@welcat.co.jp